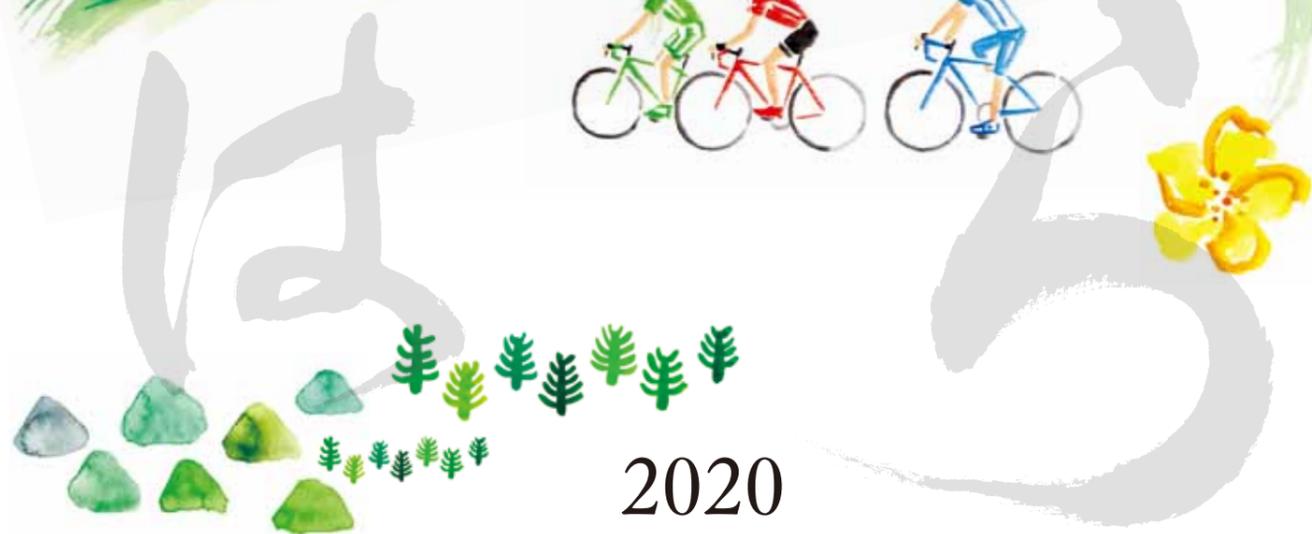


ひの

彩りと豊かな村

東京都

檜原村



2020

東京都 檜原村 村勢要覧

HinoharaLife
彩りと豊かな村 檜原村
東京都 檜原村 村勢要覧

2020

彩りと豊かな村
檜原村



檜原村勢要覧
2020



発行：令和2年3月 檜原村 企画財政課
〒190-0212 東京都西多摩郡檜原村 467-1
電話：042-598-1011(代表) ファクス：042-598-1009
<http://www.vill.hinohara.tokyo.jp/>



制作・印刷：株式会社サンニチ印刷



P2 特集 1

感動を彩る

この村で素晴らしい感動を



P4 特集 2

夢を彩る

村の資源を体験し有効活用
エコツーリズム



P8 特集 3

住を彩る

村のインフラが支える豊かな暮らし



P12 特集 4

森を彩る

やさしさに包まれる穏やかな暮らし
森の学校



P16 特集 5

人を彩る

地域でふれあい、未来へ
地域協力隊



歴史 天空の古民家

受け継がれる歴史に抱かれた暮らし
P20



水 彩りの滝で 深呼吸

清らかな清流と共に生きる
P22

P26 村の取り組み

P30 議会

P32 資料編

P44 村ならではの！



住むひと、訪れるひと、彩りと豊かさ、共有の場所へ。

“みどり せせらぎ 風の音” 四季折々の姿
を見せる檜原村は豊かな自然とともにあり人々の
心を和ませ、時には暖かさを与えてくれます。

檜原村は周りを山々に囲まれ、神奈川県相模原
市、山梨県上野原市と接し、東京都の西南に位置
しております。村の中央には、およそ標高900mか
ら1,000mの浅間尾根が東西に横たわり、村を
南谷と北谷に二分しており、その裾を清流「秋
川」が流れております。

清流「秋川」沿いに26の集落が点在する溪
谷型の山村で、総面積は105.41km²あり、その
約93%が山林となっております。

このような地域の特性を活かし、第5次檜原
村総合計画では「森と清流を蘇らせ、未来に誇
れる活力のある村」を将来像に掲げ豊かな自然
環境の中で、ゆとりと安心がある生活、村を訪れ
る人々が憩い、住んでみたいと思える村づくりを
推進しています。

日本の国全体が人口減少の時代に入り、社
会情勢は著しく変動し、少子高齢化対策、地方
分権の進展、森林環境整備の推進など、村を取
りまく環境は大きく変化しております。

このような時代の中、移り行く時代に合った政
策を促進し、大自然と共存した村づくりを進めて
まいります。



檜原村長
坂本 義次



感動

My Hinokawa 彩檜原

檜原村村民憲章

1. 自然や文化遺産を大切に、いつまでも保存していきましょう。
1. 健康な体と心をつくり、充実した日々を送りましょう。
1. 子どものすこやかな成長と老人のやすらぎを願い、豊かで明るい家庭を築きましょう。
1. よく働き、たがいに力を合せて、活気と希望にみちた村にしましょう。
1. 思いやりの心を伸ばし、みんながしあわせにくらせる村にしましょう。

感動に近い場所へ

この村で素晴らしい体験を

The Hinohara HILLCLIMB CYCLE ROADRACE

東京ヒルクライム HINOHARAステージ

檜原村の風を感じながら走る 標高差 900mの自転車レース



檜原村の 大自然を堪能できるコース

檜原村は2011年から毎年、ロードバイクで駆け上がる自転車レース「東京ヒルクライム HINOHARAステージ」を開催しています。

2013年の東京国体でロードレースのコースの一部を担うことになった檜原村は、そのイベントとしてヒルクライム大会を企画。既に東京都の奥多摩町などで行われていた「東京ヒルクライム」のシリーズの一つとして「HINOHARAステージ」大会をスタートさせました。

檜原街道の時計台付近をスタートし、奥多摩周遊道路に入り、都民の森を越え、東京都の道路最高地点の風張峠(標高1146m)でゴールという標高差900m、距離25kmのコースは、檜原村の大自然を思い切り堪能することができます。

人もむらも元気に

新たな時代へ
ひのはらの
さまざまな取り組み

My Hinohara Style



目指すは、ヒルクライムの聖地！

1000人の参加者で始まった大会も、現在は約600人が参加するようになり、地域を代表する大イベントに成長しています。

レース当日は檜原街道をはじめコースに面した沿道では、地元の人々が旗を手に応援し、わが村のイベントとしても定着してきています。

イベントの企画担当者は「参加者からは村民の沿道での応援 閉会式でのおもてなしがとてもあたたかいと 言ってもらっています」とにっこり。さらに「ヒルクライムなら檜原がいいよねと言われる大会になれるように、安 全面はもちろん、内容的にも充実を図り、村民の理解 と協力を得ながら進めていきたいと思えます」と力を 込めます。

目指すは、ヒルクライムの聖地！ここでしか味わえない感動が生まれる場所に！

HINOHARA Ecotourism



〈国指定重要文化財 小林家住宅〉

檜原村エコツーリズムを展開

檜原村は特色ある自然環境資源をはじめ、地域固有の歴史文化、生活資源などたくさん魅力と資源にあふれています。

それらを活かした体験を訪れた人々に楽しんでもらいながら、その価値や大切さを理解してもらい、環境保全や地域振興に取り組んでいこうと、村は2016年から「檜原村エコツーリズム推進協議会」を立ち上げてエコツーリズムの推進に取り組んでいます。

2018年には「檜原村エコツーリズム推進全体構想」が国の認定を受け、その活動はさらに活発になっています。

村まるごと体験と学びの場に

檜原村では村全域を、地元のさまざまな魅力を引き出した「エコツアー」を体験できる「東京ひのはらんど」と命名。村をまるごと体験と学びの場に、個性的なエコツアーを開催しています。

エコツアーのプログラムはハイキングに歴史散策、川遊び、サイクリング、トレイルランニング、農作業などさまざま。自然と共



エコ
ツ
ー
リ
ズ
ム
出
し
た
た
ム



豊かな自然環境資源に恵まれ、固有の歴史や文化が息づく檜原村は、「エコツーリズム」による地域づくりを進めています。心の癒しを求めて首都圏近郊から多くの人が訪れ、ここでしかできないエコツアーを体験しながら、地域の人々や文化とふれあい、檜原村の素晴らしさを実感しています。

に生きてきた山村の生活を体験できるものでは、森づくりや新割り体験をはじめ、漬けもの、干し柿づくりのほか、かご編みや石積み体験、無形民俗文化財である郷土芸能の見学など、檜原村の魅力をつぶりと味わえる内容が多く、リピーターとなる村のファンも増えています。



〈ハシリドコロ〉



〈シロヤシオ〉



村まるごと 体験と学びの場に

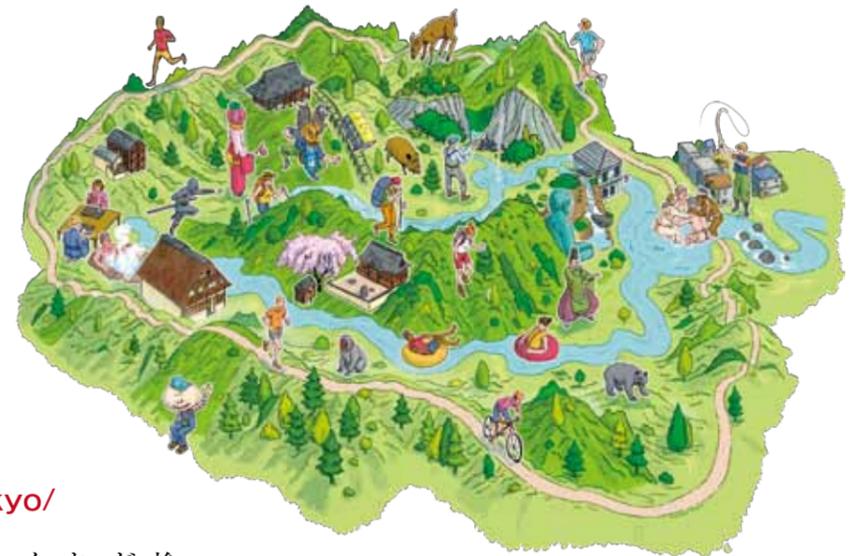


エコツアーガイドの幡野知則さん

檜原村の魅力が檜原村で生まれ育ったガイドの幡野さんにお話を聞きました。幡野さんは、東京都レンジャー（東京都自然保護員）を4年、檜原村レンジャーを3年間務め、現在は、ガイド・ウォークの会を主宰、少人数のツアーで、檜原村の山や山野草などの自然、地域の歴史文化などをご案内しています。

一方で、地域住民にとっても参加者との交流が地域を見つめ直すきっかけにもなっています。「地域で暮らす人にとってはあたり前と思っていた景色や文化が、ツアーで訪れた人にとっては珍しかったり、貴重なものだったりします。ツアーの参加者との交流の中でそういうことに気づき、地域住民が自分たちの暮らししているところの魅力が再発見できるのもエコツアーのいいところだと思います」とガイド仲間は言います。担当者は「地域の人たちが交流をきっかけに、あたり前と思っていたものを『檜原村の宝』として認識し、さらに参加者に伝えていくことで、新たな観光資源が生まれ、地域づくりへとつながっていきます」と、エコツーリズムのさらなる展開にも期待しています。

住民も地域の魅力を再発見



<http://hinohaland.tokyo/>



〈天狗滝〉

村は今後もエコツアーガイドの育成に力を入れ、プログラムも山菜など季節ならではの自然の恵みの収穫を楽しみ、収穫後はみんなで調理して味わうなど、檜原村でしか体験できないものを増やしていく計画で、「都心から1時間ほどでこんなにも豊かな自然があり、その自然を満喫できる檜原村に、多くの人に足を運んでもらえるように、地道に取り組んでいきたいと思っています」とのこと。これからの進化を続けていく檜原村のエコツーリズム。どんな出会いが生まれ、そこからどんな楽しみが生みだされていくのか楽しみです。

さらに多くの人に伝えたい

エコツアーはまた、参加者と地域住民との交流の機会でもあります。参加者は地域の人たちから古くから行われている伝統行事の歴史や昔の暮らしの様子などを直接聞くこともでき、より檜原村への理解と興味を高めています。

四季折々の楽しみが魅力

四季折々の楽しみを満喫できるのも檜原村ならではの魅力。檜原村は「多くの人が目指してやってくるような絶対にこれというものがあられるわけではありませんが、季節ごとにその季節ならではの景色や味覚、楽しみに出会えて、体験できるのが魅力です。さらっと見ただけではわからない奥深いおもしろさがあるのが檜原村です」とガイドの幡野さんは胸を張ります。



〈式三番〉

My Hinohara Style
HINOHARA
ショッピングストア
かあべえ屋



みんなの生活を優しい笑顔で迎える
村の何でも屋さん。

朝から地元のいろいろな方が笑顔で集まってきます。ここは村の生活基盤としても便利な場所、「かあべえ屋」さんです。以前から住民の要望があり、村として取り組んだ結果、平成28年7月に村営のミニスーパーが開店しました。

ママ世代、シニア世代さまざまな住民が毎日のように集まるかあべえ屋さんは、まるで村の中のひとつのコミュニティの場所。ただ必要なものを買い物に訪れるだけでなく、さまざまなコミュニケーションの場としても機能しているようです。

店内にはいわゆるコンビニのようには充実した商品の陳列がありませんが、地元ならではの加工品、地元ならではの惣菜、お弁当なども並んでおり、観光客にも地元の空気に触れやすいような雰囲気も多く見られます。取り扱い商品は、生鮮食品・加工食品・清涼飲料・日用雑貨など約500品を取り揃えています。また、バスなどを待つための休憩スペースも用意してあります。

これからも店としての機能だけでなく、村の生活基盤としての立ち位置をさらに広げていこうと取り組んでいきます。

特集3

住を彩る

村のインフラが支える豊かな暮らし

みんなの生活を優しい笑顔で迎える

第三セクター「株式会社めるか檜原」の活動

檜原村内の諸課題に対して公と民の垣根を越え総合的に対策を行い、循環型地域経済の確立と雇用の場の創出といった機能を担い、村民がいきいきと働き、健康で安心して暮らせる自然豊かで環境にやさしい村づくりを目指し、平成28年4月に第三セクター「株式会社めるか檜原」が設立され、主に3つの事業を展開しています。



ごみ収集



マスつり場

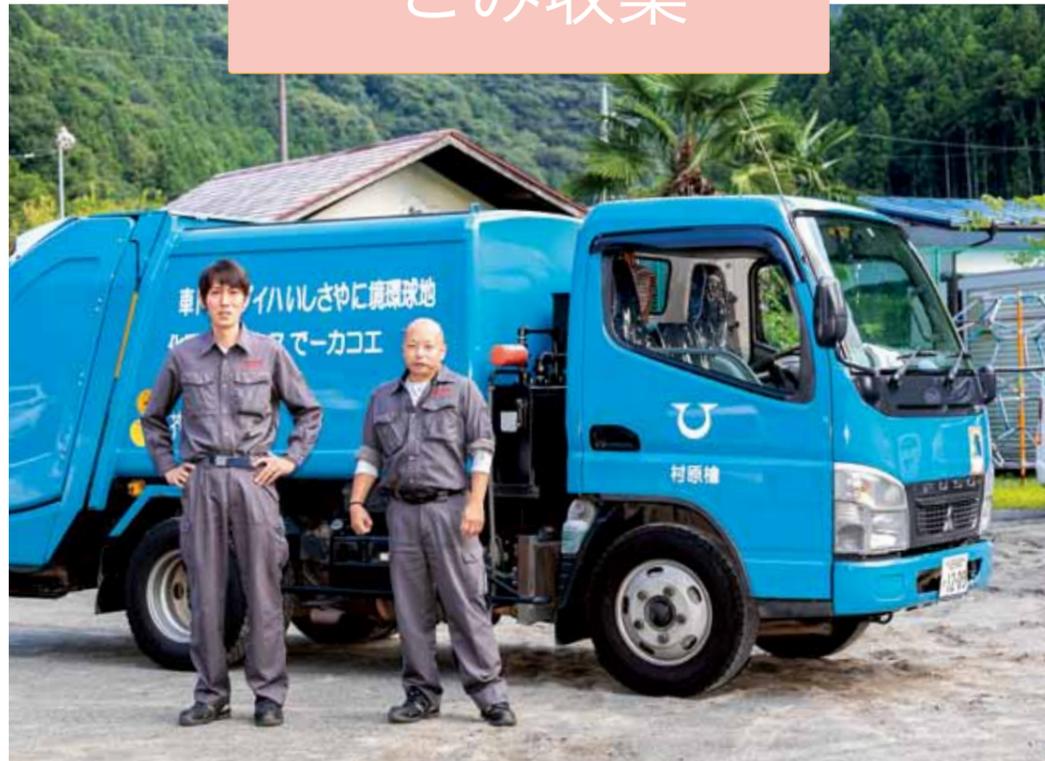


ショッピングストア
かあべえ屋



Hinohara Life
HINOHARA VILLAGE

My Hinohara Style
HINOHARA
ごみ収集



地域全体の身近な衛生環境の保全に
みんなで力をあわせていく

檜原村では他の地域に比べ、ごみの分別が徹底されています。地域全体の身近な衛生環境の保全は毎日の事。とても重要です。それを協力しながらバックアップしていくことを役割としています。

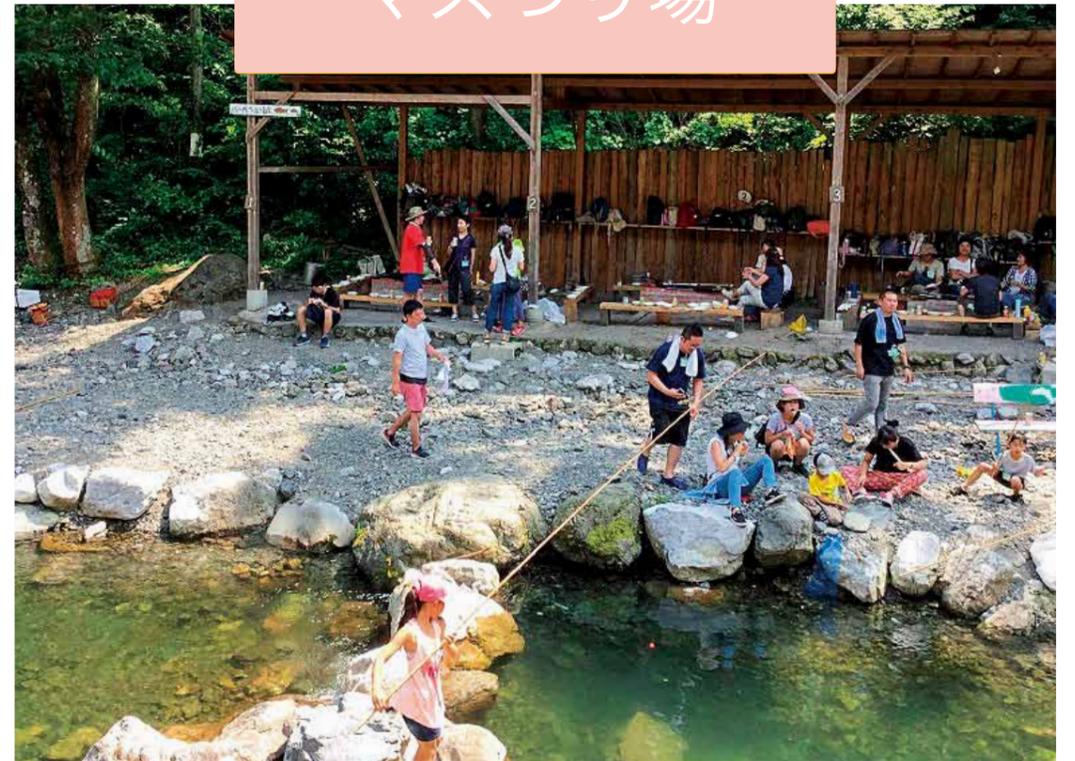
ごみの収集・運搬は、生活圏から排出されたごみを速やかに収集し、生活環境に支障のないよう安全に中間処理施設へ搬入する必要があります。そのためにチームワークが徹底されており、非常に効率よく機能的です。住民の皆さんと笑顔をかわしながら村内を回っていくスタッフの皆さんは、いずれもベテラン経験者。運転も処理もこなします。

村全体としても生活環境の保全と公衆衛生の向上を目指しており、一般廃棄物の適正な処理を行うためのインフラとして大切な役割を担っています。

目標はみんなで力を合わせて、ごみを減らしていきたいということ、これからも、ごみからサイクルして、いこうという意識を忘れないこと。

村民と事業者、行政の三者が連携・協力し、ごみの発生の抑制、ごみの再資源化の目標の達成を図り、循環型社会の実現を目指していきます。

My Hinohara Style
HINOHARA
マス釣り場



村の自然資源を有効に活用
美しい森に囲まれた魅力スポット

自然資源が豊富な檜原村。有名な滝も数多くあり、その中でも特に水源に近く、水のきれいなことで知られている神戸（かのと）川。その下流域に位置するのが、「檜原村神戸国際マス釣り場」です。豊かな自然に包まれた檜原村の人気のスポットです。

東京都指定天然記念物の神戸岩の間を流れてくる清流と大岳山と御前山に囲まれた深い森が自慢です。

釣り場では1日に数回ニジマスを放流しています。小さなお子さんでも簡単に釣ることができます。運が良ければ天然のヤマメやカジカが釣れることもあり、それも魅力のひとつ。釣った魚は無料でワタ抜きや、塩ふりもするので、バーベキューで焼いたりおみやげにする方も多くいます。ルアーやフライも可能です。

大切なのは釣り場の安全、安全管理も定期的に行い、安全で楽しい時間を過ごせるようにすること。自然環境にも配慮しています。バリアフリーにも対応。駐車場からの段差がないので車椅子の方や、ベビーカーの乗り入れの対応にも配慮しており、森に囲まれた癒し空間でさまざまな愉しみ方ができるよう工夫されています。

My Hinohara



檜原村 地域交流 センター

地域を 彩る 地域を つなげる

檜原村の役場からほどなく走ると、このエリアを象徴するような施設が見えてきます。ここは、体験基地「森の学校」。地元有志が集まるこの施設は、檜原村の「交流施設」、「ものづくり」を体験できる拠点として機能しており、村に古くから伝わる伝統料理や技能を伝えるべく、日々多くのものづくりを通して交流をはかっています。

重要な地域の交流連携 多彩な交流が生まれています

ふるさとづくり
交流連携

体験基地「森の学校」

「もうすこし」「柔らかすぎないよ
うにね」世代を超えて楽しそうな声
が響きわたるこの施設は、檜原村役場
からほど近い場所にある、檜原村地域
交流センターです。

地元の方はもちろん村外の方々も
数多く訪れるこの檜原村地域交流セ
ンターは、地元の地域連携の要である
と共に、観光を絡めた地域の体験交
流施設としての重要な役割も持って
います。

檜原村地域交流センター運営協
議会が主催する森の学校には先生方が
多くいますが、それは皆檜原村の地元
の有志の方々です。きっかけはさまざ
まで、元々興味があり、森の学校の創立
時から先生として人、生徒として
参加し、いつのまにやら先生になって
いる方々など、特徴ある方々はかりです。



先生方が集まり、皆が口を揃えて
言うのは、もつとさまざまな交流を活
発に行いたい、「檜原村のものづくり」
の幅を広げたいと話しています。情熱
溢れる笑顔で活動しています。

「体験教室」は、みそづくり、そばづ
くり、おやき、パン、紅茶などです。中
でも一番人気はみそづくりの体験教室
で、距離的に近い都内からだけでなく、
常連として地方からも参加して頂
き、体験教室で出来上がったみそを森
の学校が保有する「みそ蔵」に預ける
などして楽しんでる方々もいます。

交流・連携





こんにゃく教室も人気の教室のひとつ。先生はできるだけフォローにまわり、参加者を中心にワークショップ形式で行われる。皆であれこれ考えながら完成したこんにゃくは、試食会で味わう。皆で持ち寄った食べ物と一緒に囲むテーブルは、最高に楽しい瞬間。

地域を彩る 地域をつなげる

My Hinohara

檜原村地域交流センター

体験を通じた地域活性化を

できるだけ長く
森の学校に関わりたい

森の学校 パンの体験教室

浜中 多夫さん



私自身はパンを主体として活動をしております。この森の学校は地域でも特別な施設だと感じておりまして、できるだけ私自身も長くつき合っていたらと考えております。基本的にユーザーの方は村外の方が中心ですが、今後は村内でももっと利用して頂けるようなきっかけづくりを皆でアイデアを出し合いながら取り組みたいと考えております。この村にはまだまだ色々な方がいると思いますので、できるだけ巻き込んで、活性化を図りたいです。

森の学校で地域をつなげる

村内の方々はもちろん
様々な世代につなげたい

森の学校 みその体験教室

吉野 朱美さん



私は、味噌づくりに非常に興味があり、以前から自分で作ってみたいと思ってこの森の学校に生徒として入りました。現在は教える側、先生としてこの場で活動をしています。この学校の和気あいあいとした雰囲気が好きで、皆でこれからも力を合わせながら、盛り上げていきたいと思っています。また、大人だけでなく、子どもたちにもこの活動を知ってもらいながら、世代を超えた多くの方々に知って頂き、利用して頂きたいと思っています。

じっくり、丁寧に。
交流の輪をひろげたい

森の学校は多くの活動を予定しています。先生たちは協力して取り組みながら、檜原村の資源や特産品を交えながら現状に満足しない、より幅広い「ものづくり」学校にしたいと日々活動を行っています。

その先駆けとなっている活動が、村外の子どもを中心に開催している料理教室です。日頃忙しみなかなか顔を会わせられない先生たちがその日だけ集まり、ボランティアで子ども向けにパンやポテトサラダ、みそスープ等のメニューを新たに考えながらそれぞれの得意分野をさらに広げて教室を行っています。

今後の狙いとして、ただ体験させるのではなく、皆さんの創ったものを食べたり、さらに広く深く、そこでさまざまな交流、アイデアや活動が生まれるように、地域全体でさらなる取り組みを行っていきます。



Hirohara Village 檜原で生きる

僕らが取り組む この村の魅力発信

人と人とのつながり、自然と人のつながり。
世代を超え育まれる尊い絆は、住む人々の魂をゆさぶる。
未来へと、僕らは進んでいく。

地域おこし
協力隊に
聞く



僕らが見ている景色を、もつと多くの方へ

Tsuyoshi Ogawa
小川 豪
観光振興担当

エコツーリズムで
檜原村の魅力を発信

小川さんは東京都立川市出身。自分を育ててくれた多摩地域の自然や歴史・文化を後世に残したい、そのための力になりたい、との強い思いを抱き、新卒ながら村に移住しました。

大学で観光を専門に学んでいたことから、協力隊では観光振興担当に。村のエコツーリズム事業を軸にしつつ畑仕事や山仕事、イベントの手伝いなど幅広く活動しています。そのほかにも、自治会や消防団活動、村内各地のお祭りなどの地域活動に積極的に参加しています。

また、平成30年から個人事業として「おがツ」を立ち上げ、村内唯一の国指定重要文化財「小林家住宅」を活用したエコツアーを実施しています。今後の事業の幅を広げるため、東京都への地域限定旅行業登録も完了しました。さらに新しい試みとして、村内の空き家を借り受けて改修・清掃を施し任期後の活動拠点及び交流拠点とする空き家活用も始めました。拠点の愛称は「ひのはラボ」です。

協力隊活動やおがツの取り組みをきっかけに村の交流人口を増やすことで移住者や事業者を呼び込み、村を後世へと残していきたいと思っています。

地域おこし
協力隊に
聞く



海から山への移住は刺激的です

Kenji Matsuoka
松岡賢二
農業振興担当

村の「今」を体験して
旬の農産物を味わってほしい

松岡さんの地元は神奈川県茅ヶ崎市。海の街から山の村へと農業をするために檜原村に移住してきました。移住当初は小岩地区に住んでいましたが、令和元年7月に下川乗地区へ引っ越しをしました。

協力隊の活動としては主に農家さんの畑仕事のお手伝いをしています。

協力隊の活動外では、下川乗の空き家を活用したシェアハウス&ゲストハウス。シェア店舗「ひのはうす」と同じく下川乗の遊休農地を活用したシェア農園「ひのふぁーむ」を併せた「東京里山シェアリング」という活動を始め、クラウドファンディングで資金を調達し、会員さんを集め、令和元年7月からオープンしました。檜原村の畑や山や川で遊びたい、ゲストハウスに泊まりたいという方、そして、檜原村の大自然の中で働きたい、シェアハウスに住みたいという方には注目の取り組みです。

シェアハウス、ゲストハウスをオープンさせ、若い移住者や観光客を村に呼び込んでいます。畑や山や川で農業体験や自然体験、川遊びなどを楽しんで頂いています。協力隊の活動でも、協力隊の活動外でも活躍したいと考えています。

地域おこし
協力隊に
聞く



村の自然に魅せられて移住しました



地域おこし
協力隊に
聞く

Takuya Doi

土井卓哉

地元の方々はもちろん
村外にも楽しみを提供したい

土井さんは山と海に囲まれた山形県酒田市出身、長く住んでいた千葉県から、この自然豊かな檜原村に移住しました。以前、夫婦で三頭山に登山で訪れた際、檜原村を知りました。これも御山のご縁と、思い感謝の気持ちを込め、登山道の整備や森林の再生、檜原村の木の活用をお手伝いしていきたいと考えています。

地域おこし協力隊になる以前は、大工や建築板金、住宅金物など家に関する仕事をしていたので、この分野を活かして古民家の新しい活用方法なども考えていきたいと思っています。

今後は、かねてからの目標であるキャンプ場経営をしていきたいと思っています。趣味のボルダリングが体験できる施設や、自身も檜原村産の木材を使った家具や木製品を制作しているの、大人の隠れ家的レンタル工房などの併設もし、村外からの集客だけではなく地元の方々が気兼ねなく集まって楽しめるような施設作りを目指しています。

ボルダリングというスポーツを通じて、村内の大人も子供も皆一緒に遊べる場所を提供したい、そんな思いを描いています。

人々のあたたかさに触れ檜原村の虜になりました



地域おこし
協力隊に
聞く

Haruka Takahashi
高橋春香
空き家、移住・定住
対策担当

移住・定住で
檜原村を元気に

高橋さんは新潟市出身で現在は人里地区に在住しています。東京都にも村があるという驚きから何度か檜原村に来ていた時に協力隊の先輩方と知り合い、地域おこし協力隊の活動を知り、興味を持ちました。

もともと気さくな檜原村の方々が好きでしたが、移住してみると傍からでは分からない檜原村ならではの魅力が数多くあり村の方々の温かさに触れ、更に檜原村の虜になりました。

高橋さんは空き家、移住・定住対策を中心に活動しています。檜原村へ移住を考え、家を探している方、村の状況を知りたい方などに対して積極的にお話や案内をしています。

まずは、「村のことを知ろう！村の方と仲良くなるうー」と多方面で日々活動していて、まだまだ知らないことが沢山あるからこそ全てが新鮮で多くの発見があります。日々村のイベントや交流の場に参加をして充実した時間を過ごしています。今後は自分自身が影響を受けた檜原村を多くの方に知って・触れて・感じてもらうきっかけを作っていきたいと活動しています。

村の人たちと交流を楽しむ毎日です



地域おこし
協力隊に
聞く

Tomoko Doi

土井智子

様々な事と人を繋ぐ
交流の場をつくりたい

土井さんは千葉市から檜原村に移住してきて、地域おこし協力隊に、夫と共に仲間入りしました。村の皆さんがあたたかく迎えてくれ、すぐに馴染む事ができました。夫婦で地域おこし協力隊で仕事をすると、働ける方は、全国でも数少ない取り組みです。

土井さんはこれまで二人の子供を育てながら会社員としてさまざまなところで働いてきました。元々、人と会話をするのが好きで、移住してきてからは地域のお祭りやイベントに参加し楽しんでいきます。檜原村では行事に皆さんが楽しんで参加し、日々の生活では地域ぐるみでお互いを支え合っていることに感動しました。

そんな檜原村の魅力を伝える村の情報発信や、村の特産物、イベント企画、移住の相談、人と人のご縁繋ぎ、そして大好きな本がある場所、村の魅力をぎゅっと詰め込んだ場所を作りたいと思っています。村民から村外の人まで、いろいろな人がふらっと立ち寄れるような交流の場所であり居場所となるカフェづくりを、檜原村の古民家を再生して作っていかうと思っています。

檜原村でそれぞれの個性がさらに
光る活動を目指していきたい

地域での暮らしを楽しみながら、人との関わりを大切に活動
誰もが見たい、訪れたいと思うキッカケづくりを
地域資源の発見や魅力発信
人口減少や高齢化等の進捗が目立つ地方に、
地域外の人材を積極的に誘致し、その定住・定着を図る

空き家・移住定住

観光振興

農業振興

共に、この地域を盛り上げるために。
檜原村地域おこし協力隊

Hinohara Village



藤倉

山岳民家の
歴史にふれる

はるか 歴史を 体感。

それは、
天空の
古民家。



受け継がれる
歴史に抱かれた暮らし

藤倉のバス停から25分ほど歩いたところに、小林家住宅行ききのモノレール発着所があります。そこから山の斜面に造られた簡易モノレールに乗るのですが、スローなスピードながら最大斜度43度という山の斜面を突き進んでいくため、なかなかのスリル。発着所からさらに25分ほど歩いて登るコースもありますが、モノレールを使えば（要予約）、わずか数分で標高約750メートルの地点まで運んでくれます。

この文化財の特徴は、建設された場所にそのまま保存されているところです。檜原村では古くから炭焼きが行われており、炭焼を営みながら暮らすのに便利な尾根筋に住宅を構え、暮らしていました。小林家住宅は、主屋を中心に、附属屋、炭焼き釜、湧泉、木炭の運搬に使われた尾根筋などの周辺環境が良好な状態で保存されており、自給自足で、自然とともに暮らしてきた当時の人々の生活を垣間見ることができます。小林家住宅内部の板張りの広間は多人数で住まうため広く取られ、作業場としての台所（土間）は狭く造られています。

また、広範囲にわたり、長押（なげし）

K O B A Y A S H I H O U S E
H I N O H A R A H E R I T A G E

重要文化財
小林家住宅

構造美、力強さ、

杉 柁 栗 長押 湧泉 炭焼

そして上質

尾根筋

が取りつけられていて、力強い構造美と上品なたたずまいを両立した空間を持っています。良質な木材が手に入りやすい環境であったことから、柱には栗、土間の大黒柱には柁、梁には大径の杉が使われています。

住人による時代や生活様式の変化に伴う増改築に加え、建物全体に歪みが見られたことから、その後、村では全解体修理に踏み切ります。土台まで全部バラバラにして、使える部材は残し、傷んだ部材は交換。その際も、カンナではなくチョウナを使うなど、当時の形を忠実に再現しました。その間には新しい茅にすべて葺き替えた屋根が大雪のため破損するなどのアクシデントもありましたが、無事工事終了を迎えることができました。

今後、求められるのは、山の文化を学び、山間部の暮らしを追体験できる施設とすることです。同住宅のある陣馬尾根と呼ばれる尾根筋からは、浅間尾根の山々を見渡せます。また、周辺にはつつじの群落があり、春には桃源郷のような空間になります。そのような自然環境の素晴らしい場所にあるわけですから、内外の皆様にご利用いただければと考えています。



山岳民家の
歴史にふれる

はるか 歴史を 体感。



中山の滝

幻想 彩鮮

H I N O H A R A W A T E R F A L L



綾滝



天狗滝



清らかな流れは 村のたから。

多摩川の支流の中でも最大といわれる秋川。
檜原村に入ると、まもなく南秋川と北秋川に分かれ、
どちらの川も、四季折々に
表情を変える景色は見ごたえ十分。
ここが東京都内?と思える風景が続きます。
なかでも滝は、自然のすがすがしさを満喫できる場所。
村内には 50 を超える滝がかかり、
その周囲は、マイナスイオンを豊富に含んだ
空気に包まれています。

払沢の滝

払沢の滝は、「日本の滝百選」にも選ばれている村で一番有名な滝。
春は、さわやかな木々の新緑。
夏は、滝まつりにおける幻想的なライトアップ。
秋は、色鮮やかな紅葉。
冬は、最高結氷率の月日を当てる氷瀑クイズ。
四季を通して話題に事欠かない観光地でもあり、たくさんの人が訪れます。



払沢の滝ライトアップ

彩りの滝で深呼吸
滝めぐり

50

か所を越える

水景。

滝壺

檜原 滝めぐり

彩りの滝で深呼吸
50か所を越える
癒



華水の滝

H I N O H A R A W A T E R F A L L

自然崇拜

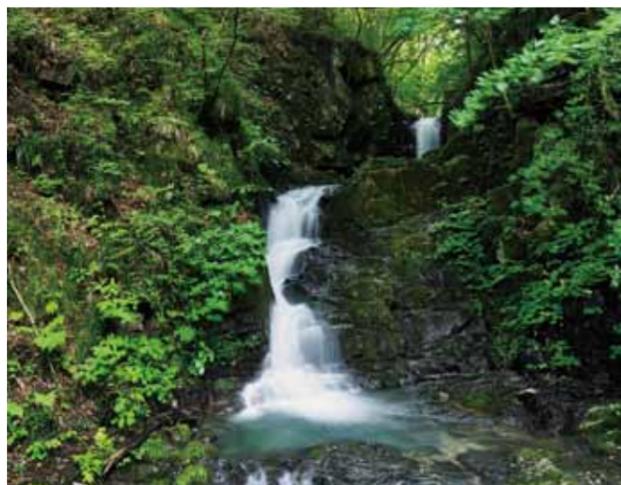
山の自然とともに暮らしがあつた、昔の人々。奥深い渓谷に突然姿をあらわす滝は、村人にとつても神秘に包まれた存在で、自然崇拜の対象でありました。龍神の滝、雨乞の滝、天狗滝、九頭竜の滝... その名前からして、神様が宿っているような滝の数々。山懐に分け入り、滝の前に佇むだけで、なぜか心が癒されます。



菅平の滝



三頭大滝



九頭竜の滝



龍神の滝



吉祥寺滝



夫婦の滝



夢の滝



雨乞の滝

水しぶき

水量が豊富で、湖が大きくて深く、巨岩に囲まれた滝。南向きの陽光が降り注ぐ明るい滝。滑り落ちる水の流れが、綾の織物を広げたような滝。異なる2つの沢の流れが、滝の上で偶然出会っている滝。高さ35メートルもある最上流の滝。檜原村に点在している滝は、それぞれ個性。訪れる季節・時刻によってもその表情が変化するため、滝めぐりの楽しみは、彩りに満ちています。



滝めぐり 彩りと癒しと



村の取り組み 人々が住みたくなる村づくり

檜原村は元気に生き生きと暮らすための支援や、恵まれた自然環境の保護と災害対策に努め、住み続けたいくなる安心、安全な村づくりに取り組んでいます。

簡易水道事業は、北秋川水系の配水管布設替工事がすべて完了し、今後はさらに東部を含む南秋川水系の工事に着手し、安定した水道水の供給を推進していきます。

また、下水道事業は、平成11年度に整備事業を着手し、計画区域を拡大しつつ、全体計画である102ヘクタールの下水道整備が完了する予定です。

一般ごみの処理については、「檜原村一般廃棄物処理基本計画」に基づき、廃棄物のさらなる減量・資源化を推進していきます。また、村独自事業として、高齢者世帯などを対象としたごみの戸別収集事業も引き続き実施していきます。



健康管理と福祉の充実で元気な村づくり

檜原村では心身ともに健やかで元気な村づくりをめざして、子どもから高齢者まで、切れ目のない福祉事業の充実に取り組んでいます。

子育てにやさしい村づくり実現のために、妊娠時の健診をはじめ、保育料の補助、高校生等への通学費補助など、さまざまな助成制度を他市町村に先駆けて実施しています。

高齢者医療についても、村単独事業として75歳以上の医療費の半額助成を実施し、高齢者の負担軽減を図っています。また、他市町村に先駆けて実施した衝突被害軽減ブレーキ等を搭載した車への乗り換え補助制度や高齢者の運転免許証返納者に対する支援制度なども引き続き行い、より安全な地域づくりを進めています。

重度障がい者への支援では、タクシー乗車料金等の交通費助成など、生活環境の整備・充実を進めています。

今後も村民のみなさんの健康意識の高揚、啓発に取り組むとともに、予防医療の充実も図り、誰もが健康でのびやかに過ごせる村づくりを進めていきます。





村では、移住・定住対策を積極的に取り組んでいます。役場西庁舎では、移住する方の支援として村内の空き家の紹介や空き家利用のための空き家改修補助、移住費用に対する支援なども行っています。

定住対策としては平成18年度より若者向け村営住宅の建築がはじまり、現在では40戸の定住促進住宅が建てられました。

また、地域ぐるみで行う新たな村おこし事業や地域おこし協力隊員による村の魅力や情報の発信など、地域を元気にする活動を積極的に応援しています。

参加と交流の村づくり



檜原村では、各地域に古くから伝わる神楽や獅子舞などの伝統芸能があり、多くの地域では毎年秋に例祭が行われています。

地域間交流としては、村にはないさまざまなことを経験できる機会として、東京都利島村や神奈川県真鶴町と連携した社会教育事業を行っており、海外派遣事業としては毎年オーストラリアへ中学生がホームステイを実施しています。村内では、山岳公園である「都民の森」などで、山の日などに合わせてイベントやコンサートを開催し、地域の活性化を図っています。

心豊かな村民を育む村づくり



森や水と調和した産業振興の村づくり



豊かな自然に恵まれた檜原村では、その環境を最大限活用する施策として「エコツーリズム」を国の認定を受けてスタートしました。環境保全・観光振興・地域振興の3つのバランスを保つべくエコツーリズムの概念は村の地域特性に適したものであり、今後も村の宝の発掘を続けながら、村の重点施策として推進していきます。

また、林道の開設工事、落石防護工事も各所で進めていきます。工事は林業関係者だけでなく、将来的にエコツーリズム事業の推進を後押しし、林道ができることにより樹木の搬出が可能となり、これまで以上に建築材や木質バイオマスなどの活用事業を推進することができると、積極的に事業展開していきます。

さらに地域の活性化と地場産材の利用促進を図るため、木のおもちゃ美術館の建設をはじめ、村の特産品として期待されている「じゃがいも焼酎」の製造に向けた工場の建設にも着手していきます。



HINOHARA VILLAGE

議公

村民と共に未来へつなぐ

村民の意思を行政へ。檜原村議会は、選挙によって選ばれた議員により構成されています。議会は誰でも傍聴可能で村民に開かれた議会となっており、村の年間予算の審議や条例の制定、改廃など村政の運営のために必要な事項を決定します。



また議案、請願、陳情などを効率的に審査するために、議員の中から選ばれた委員で構成する委員会（総務、産業建設、議会運営）が設置されています。議会は村民の代表として村民の意思を行政に反映させ、村づくりの方向性を決定します。



峰岸 茂 副議長 中村賢次 議長

新時代を築く 魅力ある村づくり



少数精鋭で将来の基盤づくり。村づくりの主役は、村民であり、行政はその支援を積極的に行いながら、さまざまな構想の実現に向けて職員、村民が丸となって村づくりを進めています。めまぐるしく変化する時代の中で、私たちに求められているのは世界有数の大都市である東京都にある村として、自然の恩恵と地域産業を結びつけるために活力ある地域を創造することです。

これまでも地域特性を活かした村づくりを進めてきましたが、より村民と協業しながら檜原村の良さや住み心地を広くアピールし、存在感を高めていきます。環境問題や防災など、複雑多様化する村民のニーズに対応するため、職員の質の向上を図るとともに効率的な財政投資を積極的に進めながら、これからも行政の効率化を進めていきます。



八田野 副村長 坂本 村長 中村 教育長



●人口と世帯数の推移

(各年1月1日)

年	男(人)	女(人)	計(人)	対前年度比世帯数(戸)	対前年度比
大正9年	2,778	2,611	5,389	1,015	
昭和5年	2,816	2,697	5,513	124	1,030
15	3,000	2,693	5,693	180	1,018
22	3,490	3,152	6,642	949	1,157
25	3,306	3,067	6,373	△269	1,126
30	3,171	3,025	6,196	△177	1,113
35	3,079	3,005	6,084	△112	1,111
36	3,022	2,970	5,992	△92	1,113
37	3,022	2,985	6,007	15	1,113
38	3,008	2,968	5,976	△31	1,098
39	2,995	2,911	5,906	△70	1,104
40	2,957	2,864	5,821	△85	1,124
45	2,651	2,629	5,280	△541	1,116
46	2,618	2,560	5,178	△102	1,119
47	2,564	2,545	5,109	△69	1,124
48	2,524	2,518	5,042	△67	1,116
49	2,508	2,456	4,964	△78	1,118
50	2,455	2,392	4,847	△117	1,117
51	2,414	2,378	4,792	△55	1,114
52	2,372	2,303	4,675	△117	1,105
53	2,338	2,263	4,601	△74	1,100
54	2,272	2,196	4,468	△133	1,089
55	2,266	2,141	4,407	△61	1,090
56	2,218	2,081	4,299	△108	1,084
57	2,193	2,059	4,252	△47	1,092
58	2,237	2,091	4,328	76	1,171
59	2,187	2,065	4,252	△76	1,179
60	2,168	2,016	4,184	△68	1,174
61	2,126	1,962	4,088	△96	1,160
62	2,077	1,910	3,987	△101	1,150
63	2,040	1,868	3,908	△79	1,143
平成元年	2,246	1,915	3,961	53	1,244
2	2,017	1,894	3,911	△50	1,243
3	1,997	1,883	3,880	△31	1,241
4	1,975	1,861	3,836	△44	1,250
5	1,950	1,851	3,801	△35	1,247
6	1,918	1,838	3,756	△45	1,255
7	1,876	1,819	3,695	△61	1,249
8	1,835	1,795	3,630	△65	1,259
9	1,821	1,776	3,597	△33	1,274
10	1,792	1,769	3,561	△36	1,274
11	1,749	1,729	3,478	△83	1,270
12	1,726	1,720	3,446	△32	1,280
13	1,685	1,700	3,385	△61	1,285
14	1,660	1,646	3,306	△79	1,277
15	1,615	1,618	3,233	△73	1,263
16	1,586	1,575	3,161	△72	1,256
17	1,560	1,556	3,116	△45	1,244
18	1,524	1,519	3,043	△73	1,236
19	1,496	1,492	2,988	△55	1,248
20	1,445	1,440	2,885	△103	1,230
21	1,409	1,421	2,830	△55	1,233
22	1,379	1,392	2,771	△59	1,235
23	1,330	1,353	2,683	△88	1,233
24	1,291	1,306	2,597	△86	1,235
25	1,262	1,264	2,526	△71	1,214
26	1,230	1,231	2,461	△65	1,196
27	1,193	1,186	2,379	△82	1,180
28	1,166	1,177	2,343	△36	1,187
29	1,148	1,135	2,283	△60	1,189
30	1,118	1,126	2,244	△39	1,188
31	1,100	1,117	2,217	△27	1,181
令和2年	1,051	1,087	2,138	△79	1,160

●自治会別人口と世帯数の推移

(令和2年1月1日現在)

地域 (自治会名)	世帯数	人口		
		総数	男	女
下元郷	63	126	66	60
上元郷	87	227	113	114
本宿	57	122	65	57
時坂	5	9	6	3
笹野	31	67	34	33
柏木野	54	104	60	44
出畑	37	74	34	40
下川乗	37	62	27	35
上川乗	25	47	26	21
和田	28	51	25	26
事貫	22	46	21	25
上平	26	46	25	21
笛吹	19	36	16	20
数馬下	26	44	21	23
数馬上	26	49	26	23
茅倉	10	19	12	7
千足	36	75	41	34
中里	20	57	28	29
白倉	32	67	35	32
大沢	14	33	18	15
神戸	63	136	73	63
宮ヶ谷戸	58	106	59	47
夏地	40	74	40	34
湯久保	22	37	21	16
小岩	48	108	56	52
尾根通	3	4	2	2
笹久保	21	35	18	17
日向平	12	20	13	7
中組	13	24	11	13
倉掛	16	24	11	13
小計	951	1,929	1,003	926
笹野②	116	116	31	85
宮ヶ谷戸②	93	93	17	76
小計	209	209	48	161
合計	1,160	2,138	1,051	1,087

檜原村勢要覧 資料編

位置・地勢

本村は、東京都の西に位置し、一部を神奈川県と山梨県に接している。面積は、105.41km²となっており村の周囲を急峻な山嶺に囲まれ総面積の93%が林野で平地は少なく、村の大半が秩父多摩甲斐国立公園に含まれている。

村の中央を標高900mから1,000mの尾根が東西に走っており両側に南北秋川が流れていて、この川沿いに集落が点在している。



檜原村

面積	105.41km ²
東西	13.85km
南北	10.00km
緯度	35度44分24秒
経度	139度10分00秒

人口

●産業別人口調べ

(単位:人)

年度	第1次産業	第2次産業	第3次産業	分類不能	計	
昭和35年	男	726	509	291	4	1,530
	女	334	20	146	2	502
計	1,060	529	437	6	2,032	
40年	男	534	563	407	0	1,504
	女	217	79	198	1	495
計	751	642	605	1	1,999	
45年	男	339	709	432	0	1,480
	女	191	200	281	0	672
計	530	909	713	0	2,152	
50年	男	205	626	527	1	1,359
	女	18	187	331	1	537
計	223	813	858	2	1,896	
55年	男	183	610	540	0	1,333
	女	27	185	330	2	544
計	210	795	870	2	1,877	
60年	男	94	598	569	0	1,261
	女	10	183	362	2	557
計	104	781	931	2	1,818	
平成2年	男	104	554	549	1	1,208
	女	20	160	424	0	604
計	124	714	973	1	1,812	
7年	男	84	486	530	2	1,102
	女	12	140	396	3	551
計	96	626	926	5	1,653	
12年	男	45	363	883	15	1,306
	女	5	82	36	8	131
計	50	445	919	23	1,437	
17年	男	49	280	478	1	808
	女	8	70	388	1	467
計	57	350	866	2	1,275	
22年	男	43	221	450	1	715
	女	11	55	368	5	439
計	54	276	818	6	1,154	
27年	男	34	158	396	33	621
	女	8	41	331	16	396
計	42	199	727	49	1,017	

●年齢別人口(5歳階級)

(令和2年1月1日現在)



福祉

●生活保護の状況(平成30年度事務報告書より)

(単位:人)

年度当初世帯数	年度末世帯数	比較増減	年間の異動	
			開始	廃止
26世帯(26人)	23世帯(25人)	△3世帯(△1人)	7世帯(9人)	10世帯(10人)

●心身障害者福祉(平成30年度事務報告書より)

身体障害者手帳等所持者状況(老人ホーム含む)

区分	1級・度	2級・度	3級・度	4級・度	5級	6級	計
身体障害者手帳	39	20	23	25	7	11	125
愛の手帳	3	10	10	11	—	—	34
精神障害者保健福祉手帳	6	19	7	—	—	—	32

●老人福祉(平成30年度事務報告書より)

(1)敬老金支給事業		
区分	対象者数	支給金額
村単独分	122人	625,000円
		75・80・85・90・95歳 1人 5,000円×119人 100歳 1人 10,000円×3人

(2)老人クラブ助成事業			
クラブ数	会員数	単位クラブ助成	連合会助成
4クラブ	297人	1,265,000円	200,000円

●環境衛生(平成30年度事務報告書より)

(1)し尿
 平成31年3月31日現在汲取可能世帯数 125世帯
 平成31年3月31日現在汲取不可能世帯数 30世帯 浄化槽世帯数137世帯(合併浄化槽82 単独55)

年度	投入量(%)	世帯数	汲取世帯
平成30年度	215,800	1,181世帯	125世帯

(2)ごみ収集
 ●収集回数
 ・燃やせるごみ収集場所 230ヶ所
 ・不燃ごみ・資源収集場所 114ヶ所
 ・燃やせるごみ 週2回
 ・燃やせないごみ 月2回
 ・資源 週1回
 ・粗大ごみ 個別収集(有料)
 ・有害ごみ(指定袋) 不燃ごみと同じ

年度	可燃ごみ	不燃ごみ	資源	粗大ごみ	合計
平成30年度	585.59	13.57	174.11	53.00	826.27

●下水道整備状況(平成30年度事務報告書より)

年度	事業計画		事業認可		整備面積等		
	面積ha(A)	人口(人)	面積ha(B)	人口(人)	管渠延長(m)	面積ha(C)	整備率%(C/B)
平成16年度まで	76.0	2,620	35.15	1,210	10,109	31.13	88.6
平成17年度	76.0(83.0)	2,620(2,220)	35.15(83.0)	1,210(2,220)	704	3.25	9.2(3.9)
平成18年度	83.0	2,220	83.0	2,220	4,177	11.69	14.1
平成19年度	83.0	2,220	83.0	2,220	5,584	12.53	15.1
平成20年度	83.0	2,220	83.0	2,220	2,679	12.36	14.9
平成21年度	83.0	2,220	83.0	2,220	4,869	7.48	9.0
平成22年度	83.0(95.0)	2,220(2,240)	83(95.0)	2,220(2,240)	2,018	3.02	3.6(3.2)
平成23年度	95.0	2,240	95.0	2,240	1,023	0.17	0.2
平成24年度	95.0	2,240	95.0	2,240	1,826	1.06	1.1
平成25年度	95.0	2,240	95.0	2,240	2,310	7.93	8.3
平成26年度	95.0(102.0)	2,240(2,070)	95.0(102.0)	2,240(2,070)	2,190	2.50	2.6(2.5)
平成27年度	102.0	2,070	102.0	2,070	2,565	2.45	2.4
平成28年度	102.0	2,070	102.0	2,070	1,885	0.82	0.8
平成29年度	102.0	2,070	102.0	2,070	1,278	1.16	1.1
平成30年度	102.0	2,070	102.0	2,070	1,215	1.79	1.8
計	102.0	2,070	102.0	2,070	44,432	99.34	97.4

※()内は変更認可後の数値

●併用開始区域

年度	面積ha	区域
平成21年度まで	68.68ha	下元郷・上元郷・本宿・笹野・柏木野 出穂・千足・中里・白倉・大沢・神戸 宮ヶ谷戸・夏地・小笠の一部
平成22年6月1日	3.63ha	下元郷・上元郷の各地区の一部
平成22年8月1日	0.68ha	出穂地区の一部
平成23年2月1日	5.45ha	出穂・下川原の各地区の一部
平成23年6月1日	0.79ha	千足・白倉の各地区の一部
平成23年8月1日	2.23ha	上川原地区の一部
平成24年6月1日	0.17ha	上川原地区の一部
平成25年6月1日	1.06ha	和田・千足の各地区の一部
平成26年6月1日	7.93ha	和田・事業・上平の各地区の一部
平成27年6月1日	2.50ha	上平・笛吹の各地区の一部
平成28年6月1日	2.45ha	下川原・上川原・上平・笛吹・小笠の 各地区の一部
平成28年11月15日	0.50ha	笹野地区の一部
平成29年6月1日	0.32ha	数馬地区の一部
平成30年6月1日	1.16ha	数馬地区の一部
計	97.59ha	

●普及率(併用開始地域内人口/行務区域内人口)

年度	普及率	人口
平成26年度末	78.6%	1,866人/2,373人
平成27年度末	84.7%	1,967人/2,323人
平成28年度末	86.6%	1,967人/2,271人
平成29年度末	86.9%	1,939人/2,231人
平成30年度末	87.9%	1,928人/2,194人

●接続率(合併下水道へ接続した公共排水事業者/併用開始地域内公共排水事業者)

年度	接続率	件数
平成26年度末	69.1%	675件/977件
平成27年度末	70.0%	699件/999件
平成28年度末	69.7%	723件/1,037件
平成29年度末	70.8%	738件/1,042件
平成30年度末	71.8%	755件/1,051件

●保育施設の現況

区分	定員						保育 児童数	所在地	
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳以上	計			
許可保育園	ひのはら保育園	3	6	6	10	20	45	42	上元郷

●介護保険(平成30年度事務報告書より)

(1)保険料		(2)対象者数				
段階	年間保険料	段階	特別徴収	併徴収	普通徴収	計
第1段階 (軽減後保険料)	37,800円 (34,020円)	第1段階	157人	19人	22人	198人
第2段階	56,700円	第2段階	88人	1人	4人	93人
第3段階	56,700円	第3段階	95人	5人	2人	102人
第4段階	68,040円	第4段階	108人	3人	5人	116人
第5段階	75,600円	第5段階	131人	1人	0人	132人
第6段階	90,720円	第6段階	159人	3人	16人	178人
第7段階	98,280円	第7段階	101人	2人	9人	112人
第8段階	113,400円	第8段階	38人	1人	10人	49人
第9段階	128,520円	第9段階	30人	1人	9人	40人
		計	907人	36人	77人	1020人

●在宅・施設別サービス利用状況(平成30年度事務報告書より)

在宅	人数	要支援					要介護					合計				
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計							
地域密着型	3	4.5%	5	7.6%	6	9.1%	28	42.4%	17	25.8%	5	7.6%	2	3.0%	66	100.0%
特養	0	0%	0	0%	5	12.8%	20	51.3%	9	23.1%	3	7.7%	2	3.0%	39	100.0%
老健	1	3.0%	1	1.4%	6	9.1%	23	58.5%	24	60.8%	17	42.5%	3	7.5%	71	100.0%
療養型	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	3	7.7%	3	7.7%	0	0%	15	100.0%
合計	3	4.5%	5	7.6%	13	16.7%	59	74.4%	52	65.0%	38	47.5%	24	30.0%	194	100.0%

保健・医療・衛生

●診療状況(平成30年度事務報告書より)

施設名	診療科目	開設日	診療時間	職員数				
				医師	看護師	放射線技師	歯科衛生士	事務職
榎原診療所	内科・外科・小児科	月曜～土曜(土・午前のみ)	午前9時～午後5時	常勤2名、非常勤2名				
	歯科	月曜～土曜(土・午前のみ)	午前9時～午後5時	常勤1名、非常勤1名	看護師1名			
	消化器外科	月曜～土曜(土・午前のみ)	午前9時～午後4時	非常勤1名	准看護師2名	非常勤1名	非常勤2名	非常勤1名
	眼科	月曜～土曜(土・午前のみ)	午後1時～午後3時	非常勤1名	非常勤1名			
合計				常3名 非5名	常3名 非1名	非1名	常2名 非2名	常2名 非1名

●平成30年度診療報酬点数保険種別及び月別内訳表(平成30年度事務報告書より)

国	保			社			保			後期高齢者			生保			合計		
	件数	日数	点数	件数	日数	点数	件数	日数	点数	件数	日数	点数	件数	日数	点数	件数	日数	点数
榎原診療所	2,181	2,918	2,692,228	1,594	1,840	1,519,610	4,412	7,935	6,438,521	342	865	298,766	8,529	13,558	10,949,125			
同上歯科	712	1,612	914,055	633	1,303	613,617	574	1,262	709,511	7	11	8,171	1,926	4,188	2,245,354			
合計	2,893	4,530	3,606,283	2,227	3,143	2,133,227	4,986	9,197	7,148,032	349	876	306,937	10,455	17,746	13,194,479			

●健診事業(平成30年度事務報告書より)

事業名	受診者数
基本健康診査	15人
胃がん検診	262人
大腸がん検診	366人
肺がん検診	320人
子宮がん検診	147人
乳がん検診	170人
前立腺がん検診	153人
肝炎ウイルス検診	42人
歯周疾患検診	20人
骨粗しょう症検診	36人
人間ドッグ検診	17人
風しん抗体検査	3人

●健康教室(生活習慣病予防教室)(平成30年度事務報告書より)

実施内容	実施回数	参加人数
栄養教室ヘルシ～ひのはらいふ	6回	35人
歯周疾患予防教室	1回	3人
骨粗しょう症予防教室	1回	1人
計	8回	39人

防災

●消防関係

区分	本 団	本 部分 団	第一分団			第二分団			第三分団			機 能 別 計	合 計					
			分 団	第 一 部	第 二 部	分 団	第 一 部	第 二 部	分 団	第 一 部	第 二 部							
			計	計	計	計	計	計										
団員数	4	26	4	7	10	21	4	19	10	8	41	4	21	21	14	60	43	195
消防ポンプ自動車					1	1				1	1					1		6
消防指揮車		1																1
積載車		1		1	2	3		4	1	1	6		2		1	3		13
可搬式ポンプ		1			2	2		2		3	5		5	1	4	10		18
消火栓				11	9	20		19	9	9	37		14	10	10	34		91
防火水槽				6	8	14		8	11	5	24		8	2	8	18		56
水利道				5	3	8		23	4	12	39		14	7	10	31		78
器具庫				1	5	6		5	2	2	9		7	2	4	13		28
受持面積(km ²)				3.4	14.6	18.0		22.6	10.4	12.8	45.8		15.1	5.1	21.4	41.6		105.4

財政

●平成30年度一般会計・特別会計歳入歳出決算総括表

(単位:千円)

区分	歳入			歳出			歳入歳出 差引残高
	予算現額	決算額	比較 (%)	予算現額	前年度 繰越額	計	
一般会計	3,593,266	3,602,011	100.2	3,577,623	15,643	3,593,266	107,091
特別会計	222,974	227,221	102.0	222,974	0	222,974	9,674
特別会計	209,592	209,334	99.9	209,592	0	209,592	6,151
特別会計	131,078	131,078	100.0	131,078	0	131,078	8,607
特別会計	455,954	455,873	99.9	455,954	0	455,954	30,968
特別会計	514,557	514,873	100.1	514,557	0	514,557	8,687
特別会計	59,504	59,564	100.1	59,504	0	59,504	1,470
特別会計	84,782	84,947	100.2	84,782	0	84,782	958
合計	5,688,839	5,704,382	100.9	5,673,196	15,643	5,688,839	196,886

※千円未満端数処理のため、実際の決算数値と差異が生じる場合があります。

●財政規模

(単位:千円)

区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
基準財政需要額	1,254,224	1,357,004	1,362,239	1,303,816	1,297,311
基準財政収入額	204,805	219,280	223,333	209,412	210,733
標準財政規模	1,382,016	1,484,292	1,472,820	1,409,599	1,404,952
財政力指数	0.161	0.161	0.163	0.162	0.162
実質収支比率	3.8%	8.8%	8.7%	10.4%	8.2%
経常収支比率	72.4%	72.0%	76.1%	79.5%	81.6%
公債費比率	—	—	—	—	—
積立金現在高	5,553,033	5,694,286	5,704,885	5,624,536	5,520,219
地方債現在高	3,168,969	3,119,732	2,999,081	2,892,481	2,781,702
地方交付税	1,231,408	1,337,903	1,351,785	1,281,939	1,288,491
再掲	1,049,419	1,137,382	1,137,785	1,093,377	1,086,578
ラスバイレス指数	97.6	97.0	99.1	98.6	96.9

●公共施設一覧

区分	建築(建設)年度	構造	延床面積(m ²)	箇所	収容人員	備考
公営住宅	昭和33・47・平成14・15・16・19	木造、一部非木造		23戸		
村営住宅	平成18・19・22・23・24・28・令和元			53戸		
定住促進住宅	平成30	木造		2戸		
福祉センター	昭和48	鉄筋コンクリート2階建	806.0	1ヶ所	300人	
学 小学校	昭和56・昭和60増築・平成16増築	鉄筋コンクリート3階建・一部木造	2333.0	1ヶ所		校舎
校 中学校	昭和60	鉄筋コンクリート3階建	3158.0	1ヶ所		校舎
給食共同調理場	平成14	1階鉄筋造、2階鉄骨造	455.8	1ヶ所		
郷土資料館	昭和62	鉄筋コンクリート2階建	658.0	1ヶ所		
コミュニティセンター	昭和63・平成元・4・6	鉄筋コンクリート2階建	1651.0	4ヶ所		
役場庁舎	平成4・5	鉄筋コンクリート地下1階地上3階建	2875.9	1ヶ所		
役場西庁舎	平成27	木造2階建	184.2	1ヶ所		
温泉センター	平成6・7	鉄筋コンクリート地下1階	807.8	1ヶ所		観光協会へ委託
藤倉ドーム	平成9・10	鉄骨造平屋建	640.7	1ヶ所		ゲートボール場・会議室
高齢者在宅 サービスセンター			756.6	1ヶ所	30人	
ふれあいセンター			745.4	1ヶ所	150人	
診療所			794.6	1ヶ所	100人	
保健センター	平成8~10	鉄筋コンクリート地下1階	382.2	1ヶ所	30人	
福祉作業所		地上3階建	350.2	1ヶ所	15人	
児童館			353.2	1ヶ所	50人	
その他の施設			689.4	1ヶ所		空中歩廊・屋内駐車場・出 会の塔・機械室・電気室他
合計			5071.6	7ヶ所	375人	
図書館	平成18	木造平屋建	438.6	1ヶ所		
地域交流センター	平成12	木造2階建	286.5	1ヶ所		
教育の森研修棟	平成19	木造2階建	175.3	1ヶ所		研修棟
複合施設	平成27	鉄骨造3階建	238.94	1ヶ所		防災住宅(4戸)・かあべえ屋

教育・文化

●学校規模・施設等

(令和元年5月1日現在)

学区	児童・生徒数		施設					教室数					
	男	女	総 面積	敷 地面 積	屋 外 運 動 場	ブ イ ル	校 舎 面 積	総 数	普 通 教 室	特 別 教 室	屋 外 運 動 場		
檜原小学校	53	30	23	7	6,778	3,417	3,361	444	2,333	14	7	7	1,122
檜原中学校	21	14	7	3	7,442	1,915	5,527	510	3,158	14	4	10	664

●児童数・学級数の推移

(各年5月1日現在)

年度	小学校		中学校	
	児童数	学級数	生徒数	学級数
昭和45年度	629	46	372	12
50	483	47	309	12
55	358	40	243	11
60	265	18	175	12
61	254	11(1)	167	6
62	240	10(1)	155	6(1)
63	223	9(1)	154	6(1)
平成元年度	219	9	133	5(1)
2	213	9	121	4(1)
3	223	11	102	3(1)
4	211	11	112	4
5	201	11(2)	111	4
6	199	11(2)	116	5(1)
7	180	11(2)	110	4(1)
8	174	10(1)	110	4(1)
9	159	10(1)	110	4(1)
10	151	10(1)	100	4(1)
11	146	6(1)	85	3
12	142	6(1)	81	3
13	136	6(1)	77	3
14	131	6(1)	81	3
15	131	6(1)	72	3
16	124	6(1)	67	3
17	115	6(1)	65	3(1)
18	108	6(1)	59	3(1)
19	107	6(1)	56	3(1)
20	101	6(1)	51	3(1)
21	90	6(1)	53	3
22	78	6(1)	51	3
23	72	6	48	3(1)
24	70	6	40	3(1)
25	66	6	40	3(1)
26	59	6	40	3
27	52	6	42	3
28	50	6(1)	32	3
29	49	6(1)	25	3
30	44	6(1)	19	3
令和元年度	53	6(1)	21	3

※()は特別支援学級数(固定)

●檜原村の文化財

区分	指定年月日	名称	所在地	所有者等	備考
国	重要文化財	S53. 1.21	小林家住宅	中組	檜原村
		H23.10.28	中村家住宅主屋	数馬	中村光則
		H25. 3.29	蛇の湯温泉たから荘	数馬	小林栄
		H29. 5. 2	旧高橋家住宅主屋	人里	檜原村
		H30. 3.27	峯岸家住宅主屋	中組	峯岸葵
		S27.11. 3	小沢の式三番	小沢	小沢式三番保存会
		S27.11. 3	笹野の式三番	笹野	笹野式三番保存会
		S54. 3.31	柏木野の神代神楽	柏木野	柏木野神代神楽保存会
		S54. 3.31	数馬の太神楽	数馬	数馬太神楽保存会
		S60. 3.18	藤倉の獅子舞	藤倉	藤倉獅子舞保存会
都	登録有形文化財	S60. 3.18	数馬の獅子舞	数馬	数馬獅子舞保存会
		H27. 3.16	人里の獅子舞	人里	人里獅子舞保存会
		S63. 2.22	御飼神事	本宿	春日神社氏子
		S31. 3. 3	木造蔵王権現立像	人里	五社神社
		S31. 3. 3	木造不動明王立像	人里	五社神社
		S35. 2.13	神戸岩	神戸	吉野直樹 他2名
		H12. 3. 6	三頭大滝	数馬	東京都
		S62. 2.24	武蔵名勝図会稿本	上元郷	吉野一成
		H 3. 3. 8	檜原城址	本郷	市倉弘平 他9名
		村	旧跡	S51. 8. 7	口止番所跡
S51. 8. 7	熊野神社のスキ			上川乗	代表 吉野直樹 目 6.00m 高 50.00m
S51. 8. 7	春日神社のスキ			中組	代表 吉野高明 目 5.60m 高 40.00m
S51. 8. 7	大嶽神社のヒノキ			大岳	代表 吉野高明 目 3.20m 高 30.00m
S51. 8. 7	笹平の大ヒノキ			笹野	野村治男 目 2.50m 高 25.00m
S51. 8. 7	春日神社のケヤキ			本宿	代表 吉野高明 目 6.20m 高 33.00m
S51. 8. 7	賽の神のカヤ			和田	福田宮夫 目 2.67m 高 15.00m
S51. 8. 7	中泉のクリ			上元郷	小泉幸夫 目 4.20m 高 11.00m
S51. 8. 7	福荷神社のムクエノキ			上元郷	吉野一成 目 2.25m 高 24.00m
S51. 8. 7	馬道沢のカツラ			笹野	株第一石産運輸 目 2.13m 高 27.00m
文化財 (彫刻)	H21. 2. 2	木造金剛夜叉明王立像	人里	五社神社	
	H21. 2. 2	木造菩薩形坐像	人里	五社神社	
	H21. 2. 2	木造大威徳明王騎牛像	人里	五社神社	
	H21. 2. 2	木造軍荼利明王立像	人里	五社神社	

※村・記念物(名木)の備考欄 目:目通り 高:高さ

ふるさとこの歩み

戦後から現在

檜原村年表

- 一九四六（昭和二一）
 - 4月1日 多摩食糧事務所五日市支所檜原村配給所を設置する
 - 5月10日 檜原村木材協同組合が創立
 - 18日 食糧飢餓突破対策委員会を設立する
 - 22日 本村への救護米割当一人225グラム
 - 27日 檜原村方面委員会が発足
 - 9月11日 人里分校校舎増築、運動場拡張
 - 18日 数馬に電燈がつく
 - 11月6日 大多摩観光協会（一行25名中に吉川英治もあり）から観光現地視察を受ける
 - 12月22日 農地委員を選出
- この年、檜原村青年団が再発足（男女各青年団を統合）

- 一九四七（昭和二二）
 - 3月 南檜原国民小学校本校が2教室増築
 - 4月5日 第一回公選村長選挙で清水敬道が選出される
 - 30日 22名の村議会議員の選挙を施行
 - 5月5日 新製の檜原中学校開校、仮校舎、本校は檜原小、第一分校は檜原小人里分校、第二分校は北檜原小、この年、校章を制定する。檜原、南檜原、北檜原の三警防団も統合して檜原村消防団を組織する
- 一九四八（昭和二三）
 - 3月1日 森田栄寿が村直営診療所の医師となる
 - 4月11日 檜原農業協同組合の設立総会を開く
 - 5月 五王バス線の本宿〜大沢間開通
 - 9月6日 東部診療所が落成する
 - 9日 小河内ダム工事を再開
 - この秋、檜原村婦人会が発足
 - この年、各小学校でPTAを創設する

- 一九五〇（昭和二五）

- 5月7日 檜原中学校の本校、第一・第二分校の各校舎が竣工し、生徒を収容する
- 7月10日 笛吹尾根と南秋川、秋川本流に囲まれる以西地区を除いた村の大部分が、秩父多摩国立公園に指定される

- 一九五一（昭和二六）
 - 4月 中里神田囃子が創立される
 - 5月 五王線バスが大沢〜小沢と本宿〜上川乗間に開通
 - 6月 檜原酪農組合創立（最盛期には百頭余）
 - 7月1日 住民登録法の施行で戸籍事務が改正する
 - 8月7日 上川乗〜鞆口峠間の道路が、五日市小河内線として都道三三九号線に認定される

- 一九五二（昭和二七）
 - 5月11日 檜原村森林組合の設立総会を開催
 - 9月30日 農地計画が完了する
 - 11月1日 檜原村教育委員会を設置
 - 3日 笹野と小沢の式三番が、東京都技芸として無形民族文化財に指定される
 - この年、笹野まで電話が引ける
- 一九五三（昭和二八）
 - 11月19日 檜原村郷土芸能祭を檜原小学校で行う
 - この年から各小学校の8施設で青年学級を開催
 - また檜原中学校で校歌を制定する

- 一九五四（昭和二九）
 - 3月 千足の神田囃子が創始される
 - 4月1日 馬場灌漑用水路開発工事着工（12月完工）
 - 4日 檜原中学校本校運動場拡張工事が始まる（30年12月終了）
 - 5月31日 南北両診療所の開所式

この年、五王バス線の人里〜数馬間が開通、電話は藤倉まで引ける

- 一九六一（昭和三六）
 - 1月8日 西潟潤太郎檜原小学校長が現職死去
 - 3月 南檜原小学校本校、校舎が西多摩郡で初の鉄筋校舎として完成
 - この年秋、西多摩地方事務所第五工区（現檜原工区）事務所が、檜原村623番地に置かれる。茅倉農道工事完了
 - 6月5日 檜原鉱業所が栃の戸山を採石現場として開業する
- 一九六二（昭和三七）
 - 4月 南檜原小学校本校・人里分校
 - 9日 数馬分校でミルク給食を開始
 - 6月20日 北秋川橋の開通式
 - 7月 倉掛地区で高冷地野菜（花野菜）の育成を始める
 - 8月1日 警備員が各学校へ配置される
 - 9月20日 檜原中学校のプール完成
 - 11月8日 北檜原小学校の本校と第一分校でミルク給食を開始
 - 12月8日 檜原中学校本校の増築工事が完了する
- 一九六三（昭和三八）
 - 4月 義務教育学校の教科書無償供与制が始まる（小1、2年より）
 - 共励小学校がミルク給食を開始
 - 12月25日 小岩の山口薫氏が本宿でハイヤー業を始める
- 一九六四（昭和三九）
 - 1月3日 日本砕石工業株式会社檜原工場がナツトリ沢山で採掘を開始
 - 2月10日 小沢駐在所を現在地へ新築して移転
 - 4月1日 各小学校へ事務補佐員を置く
 - 7月 北檜原小学校第二分校がミルク給食を開始
 - 北檜原小学校が校歌を制定
 - 11月23日 檜原小学校が創立九十周年記念式典を挙行する
- 一九六五（昭和四〇）
 - 4月 檜原中学校の第一、第二分校が独立、南秋川中学校、北秋川中学校となる。南檜原小学校人里分校が数馬分校を置く。南秋川小学校、北檜原小学校第一分校が藤原分校を置く、北秋川小学校となる
 - 6月 泉沢、上平、茅倉、神戸の四地区有志が、東京大森

- 6日 神戸の囃子が創始される
 - 9月19日 南檜原小学校人里分校が失火により全焼
 - この年、北檜原小学校第二分校（旧藤倉小学校の現校舎）が新築される
- 一九五五（昭和三〇）
 - 3月14日 上川乗線〜栗坂峠間の県境道路起工式を挙行
 - 4月1日 人里分校（南秋川小）の校舎落成
 - 5月15日 東部診療所檜原村533番地へ新築、これに移転する
 - 10月 小岩新道が都道になる
 - 11月23日 檜原小学校が校舎新築満三十周年記念式典と、校歌の発表会を行う
 - 12月15日 新幹道路五日市上野原線が、地方道路一級に準ずることとして、上野原五日市線（都道第42号↓後33号線）と改称

- 一九五六（昭和三一）
 - 2月3日 北檜原小学校第一分校（北秋川小）の校舎新築落成
 - 4月 共励小学校裏手土砂崩壊により校舎1階に大被害を受ける。小岩以西の道路改修促進委員会が発足
 - 6月 五王バス線の小沢〜小岩間、上川乗〜人里間が開通
- 一九五七（昭和三二）
 - 1月21日 三頭山 鞆口峠道改修促進委員会（会長中村光則）が発足する
 - 5月18日 檜原中学校が創立十周年記念式典を挙行
 - 6月 小河内貯水池（奥多摩湖）が貯水を開始
 - 8月31日 小沢〜神戸間の農道工事完了
- 一九五八（昭和三三）
 - 2月 笛吹農道工事完了
 - 11日 檜原小学校が学校給食を開始（C型週3日制で発足）
- 一九五九（昭和三四）
 - 10月12日 数馬分校、校舎が完成
 - 15日 南部の数馬、北部の小岩まで共同加入電話が架設される
 - この年、藤倉地区に電燈がつく

- 一九六〇（昭和三五）
 - 2月13日 神戸岩が東京都天然記念物として指定される

- 一九七〇（昭和四五）
 - 2月3日 上元郷駐在所が現在地に竣工
 - 4月10日 檜原村学校給食共同調理場完成により、村内の小中学校に完全給食を実施する
 - 7月8日 南秋川小中学校共用のプール完成
 - この年、橋橋の幅員を現況のように拡張する

- 一九七一（昭和四六）
 - 7月 南檜原小学校のプール完成
 - この年、鋸山林道工事完了し、奥多摩町水川地区と交通が開ける。第一次林業構造改善事業実施（3か年間）指定を受ける
- 一九七二（昭和四七）
 - 3月1日 北秋川小学校が校章と校歌を制定
 - 4月1日 村営水道の敷設工事が倉掛地区から始まる
 - 8月27日 檜原郵便局が日曜日集配を休止する

- 一九七三（昭和四八）
 - 4月25日 奥多摩有料道路の開通式
 - 5月 檜原中学校体育館の開館式挙行
 - 9月27日 檜原村長期総合計画を策定する

- 一九七四（昭和四九）
 - 3月10日 檜原小学校が開校百周年記念式典を挙行
 - 12日 秋川消防署檜原出張所が本宿に設置される
 - 9月20日 檜原村福祉センターが開館する

- 一九七六（昭和五一）
 - 2月10日 農集電話が単独電話になる
 - 7月 檜原村教育委員会が檜原村天然記念物として樹木11本を指定する
 - 12月25日 笹野と小沢の式三番が、文化庁から無形の民俗文化財として選択される
 - この年、高涼地利用による母栽培の試作を始める

- 一九七七（昭和五二）
 - 4月1日 村営水道南谷水系として、その敷設工事を数馬地区から始める
 - 7月18日 檜原村教育推進協議会が、檜原村教育委員会からの村教育問題に関する諮問に対し答申書を提出
 - 9月15日 上元郷、本宿両部落共催で、神田囃子創始五十年記念式典を行う

この年、浅間尾根道を遊歩道として整備する

●一九七八（昭和五三）

1月21日 中組の小林忠利家住宅一棟が、国の重要文化財として指定される
9月 大岳線の改修工事を完了
この年、当初において、檜原鉱業所が閉山する

●一九七九（昭和五四）

3月31日 柏木野の神代神楽と数馬の大神楽が、東京都無形民俗文化財として指定される
4月1日 檜原の村章と村の木（ひのき）、村の花（やまぶき）、村の鳥（うぐいす）を制定
4日 檜原第二工区が新設され、事務所を檜原工区事務所内へ置く
この年から4か年間、第二次林業構造改善事業実施の指定を受ける

●一九八〇（昭和五五）

3月31日 小坂志沢、矢沢、熊倉沢上流部の3万9653ヘクタールが、檜原南部自然環境保全地域として、東京都指定地になる 小坂志沢林道延長工事（湯場の沢と石宮間）が竣工する

●一九八一（昭和五六）

4月1日 檜原村民憲章制定

●一九八二（昭和五七）

3月31日 共励小学校閉校 檜原小学校新築落成
4月1日 檜原小学校、共励小学校統合
8月 役場庁舎改築

●一九八三（昭和五八）

4月24日 統一地方選挙

●一九八四（昭和五九）

1月10日 長期総合計画策定
3月31日 南檜原小学校、北檜原小学校閉校
4月1日 南檜原小学校、北檜原小学校統合、ひのほら保育園開園
11月 総合グラウンド夜間照明設置、檜原診療所改築、旧共励小学校取り壊す、村勢要覧作製
12月29日 南秋川小学校校舎火災焼失

10日 敬老福祉大会が行われる
11月2と6日 住民のアメリカ（ロサンゼルス）海外視察実施

●一九九六（平成八）

2月20日 西川橋完成する（架け替え）
3月 檜原村公共下水道基本構想策定
6月19日 檜原温泉センター落成式
7月8日 檜原村へ天皇・皇后両陛下下行幸啓
10月6日 第五回檜原村民体育祭が行われる
25日 北京市友好団が来村する

●一九九七（平成十）

1月 電算機器の導入へ検討委員会発足
2月24日 やすらぎの里起工式行つ
3月 檜原村公共下水道基本計画策定
4月1日 村税振替納税始まる
23日 檜原村納税貯蓄組合解散式行つ
6月5日 入間白岩林道開通式が行われる（延長6、493メートル）
7月23日 第二回檜原村女性議事行われる
11月6と9日 公募による住民の台湾へ海外視察行われる

●一九九八（平成十一）

1月15日 大降雪、立木が被害甚大（役場付近は40cm、都民の森70cm）
3月 住宅マスタープラン策定
10月11日 第六回檜原村民体育祭が行われる
30日と11月2日 公募による住民の中国へ海外視察行われる
12月 藤倉ドーム落成式行われる

●一九九九（平成十二）

3月20日 国の施策による地域振興券を交付（対象者1、047人）
31日 檜原小学校数馬分校の閉校式が行われる 第三次檜原村後期基本計画を策定 南北診療所の診療を閉鎖
4月1日 やすらぎの里開園
25日 統一地方選挙が執行され村長、村議会議員が無投票当選となる
5月12日 檜原村公共下水道が流域下水道に加入
22日 やすらぎの里落成式が挙行される

●一九八五（昭和六〇）

2月10日 檜原小学校プール完成
3月20日 檜原中学校校舎改築のため旧檜原小学校校舎仮校舎として引越す
31日 南秋川小学校閉校
4月1日 檜原小学校に南秋川小学校統合
6月 檜原中学校取り壊し、新築工事着工
10月5日 檜原小学校増築工事完成
20日 第一回檜原村民体育祭（入場者約2千人）行われる

●一九八六（昭和六一）

3月20日 檜原中学校新築落成
31日 北秋川小学校、藤倉小学校、数馬小学校、南秋川中学校、北秋川中学校閉校
4月1日 檜原小学校に数馬小学校（分校として）、北秋川小学校、藤倉小学校統合、檜原中学校に南秋川中学校、北秋川中学校統合
2日 藤倉（西東京バス運行開始）
11月 旧檜原小学校取り壊す

●一九八七（昭和六二）

3月17日 檜原小学校、校歌、校章を制定
31日 檜原中学校プール完成 郷土資料館竣工
10月4日 第二回檜原村民体育祭（村制一〇周年記念）開催

●一九八八（昭和六三）

1月14日 中学生による子供議会が行われる
5月26日 郷土資料館開館
9月 移動図書館「やまぶき号」運行開始

●一九八九（平成元）

4月1日 第2、第4土曜日が開庁となる
小沢コミュニティセンター開館
5月9日 教育相談が旧庁舎2階の一室で開始される
10月8日 檜原村郷土芸能祭実施（入場者4千人）

●一九九〇（平成二）

4月1日 奥多摩有料道路が一般開放
26日 甲武トンネルの開通式が挙行される
28日 弘沢の滝が「日本の滝一〇選」に選定
5月30日 都民の森が開園
7月8日 人里コミュニティセンター落成祝賀会
8月20と30日

7月22日 檜原村農業委員会解散式行つ
10月1日 檜原村シルバー人材センター法人化される
12月22日 旧診療所を図書館として改良し開館

●二〇〇〇（平成十二）

3月 特定環境保全公共下水道計画認可（35ha）
3月 介護保険事業計画（第一期）を策定
3月24日 檜原村旧庁舎を取り壊す
4月1日 介護保険制度始まる
8月30日 檜原村公共下水道工事着工
10月15日 檜原村郷土芸能祭開催

●二〇〇一（平成十三）

5月7日 檜原村地域交流センター落成式行つ
8月27日 檜原村戸籍総合システムが稼働開始

●二〇〇二（平成十四）

3月 檜原村森林整備計画（変更）を策定
5月19日 やすらぎの里3周年記念式典、社会福祉協議会3周年記念式典、やすらぎの里フェスティバルが行われる
8月 住民基本台帳ネットワークシステム
10月20日 村民ふれあいフェスティバルが雨天順延27日雨天中止

●二〇〇三（平成十五）

1月14日 やすらぎの湯源泉掘削
3月 介護保険事業計画（第二期）を策定
4月 公営本宿住宅（4棟）供用開始
4月1日 檜原村消防団の再編
9日 学校給食共同調理場を新築し供用開始
27日 統一地方選挙（村長・村議会選挙）執行
7月 檜原村簡易水道事業変更認可（第1次拡張事業）
8月 檜原小学校木質化始まる
8月25日 住民基本台帳ネットワークシステム第2次サービス開始
9月25日 第4次総合計画を策定
12月5日 LGWAN（総合行政ネットワーク）接続開始

●二〇〇四（平成十六）

1月6日 やすらぎの湯温泉オープン式典が行われる
1月 旧学校給食共同調理場を取り壊す
1月30日 藤倉地区に福祉モノレールが設置される
4月 公営神戸住宅（3棟）、公営南郷住宅（4棟）供用開始

中学生海外派遣事業開始

●一九九一（平成三）

2月8日と15日 役場庁舎・郵便局舎築庁舎建設始まる
第一回フライパン特派員（女性）オーストラリアへ海外視察
4月21日 統一地方選挙が執行され今回から即日開票となる（村長・村議無投票）
7月1日 村成ふれあい電話（一三三三）開始
8月20日 台風12号による被害が発生し都民の森閉園
10月6日 第三回檜原村民体育祭が行われる
12月25日 多摩移管一〇〇周年記念事業に向けてTAMARAいふ協会の設立総会が都庁で行われる

●一九九二（平成四）

2月3と11日 第二回フライパン特派員（女性）によるオーストラリア海外視察
8月1日 週休2日制が実施される（一般）

●一九九三（平成五）

3月31日 村道中峰平線1、090メートルが完成
4月1日 樋里コミュニティセンター開館
31日 檜原村旧庁舎の開庁式が行われる
9月1日 檜原村新庁舎で開庁式が行われる
10月7日 檜原村新庁舎・郵便局舎の落成式が行われる
10日 郷土芸能祭が行われる
12月21日 長期総合計画策定

●一九九四（平成六）

3月 檜原村地域福祉計画の策定
4月8日 旧庁舎を図書館に改築し開館
7月7日 第一回一日女性議会が行われる
10月9日 第四回檜原村民体育祭が行われる

●一九九五（平成七）

3月31日 万成林道延長638・8メートルが完成する
4月2日 南郷コミュニティセンター落成式が行われる
23日 統一地方選挙が執行され村長・村議会議員選挙、村長無投票当選
8月3日 都道、笹野大橋、馬場橋開通式
9月1日 三安約定の制定

6月22日と7月24日 開始
7月1日 市町村合併について住民懇談会を村内9会場で開催
NTT東日本による光ファイバーインターネットサービスが村内全域で開始
8日 石原都知事が来村し都民の森で都レンジャー出陣式が行われる
8月 檜原中学校木質化始まる
8月7日、8日 ひのほら村ふる里まつりが弘沢の滝夏まつりと併せて開催

●二〇〇五（平成十七）

2月16日 数馬へリポート運用開始式が行われる
3月 数馬地区に福祉モノレールが設置される
3月 檜原村地域福祉計画を策定、檜原村次世代育成支援行動計画を策定
4月1日 入湯税が導入される
4月 公営小沢住宅（4棟）・公営小岩住宅（2棟）供用開始
5月 地場産材利用促進事業が開始
6月 特定環境保全公共下水道計画変更認可（83ha）
8月20日、21日 ひのほら村ふる里まつりが弘沢の滝夏まつりと併せて開催
10月5日 檜原村表彰式が行われる

●二〇〇六（平成十八）

2月 檜原村行政改革大綱・実施計画を策定
3月 山村振興計画を策定
3月 高齢者保健福祉計画介護保険計画（第3期）を策定
4月 IP電話を役場に設置
4月 公共下水道事業受益者分担金徴収開始
5月17日 じゃがいも焼酎「HINOHARA」誕生
7月1日 公共下水道が供用開始（下元郷・上元郷・本宿・茅倉・千足・中里・白倉・大沢の各一部）
7日 檜原村特定環境保全公共下水道及び流域下水道あき野幹線供用開始記念式典が行われる
8月1日 上元郷住宅（3棟6戸）供用開始

8月19日、20日 弘沢の滝夏まつり・ふる里物産展が開催
 10月19日 中央区の森協定書締結式及び除幕式が行われる

二〇〇七（平成十九）
 3月23日 都民の森「大滝の路」が森林セラピーロードに認定
 3月 障害者福祉計画（第1期）を策定
 3月 定員管理計画を策定
 4月 高齢者保健福祉計画（第3期）を策定
 4月 北秋川浄水場膜処理設備給水開始
 4月1日 榎原村立図書館が開館
 22日 統一地方選挙（村長、村議会選挙）が執行
 6月1日 公共下水道が供用開始（本宿・笹野・神戸・宮ヶ谷戸の各一部）
 7月17日、8月23日 住民懇談会が9会場で開催
 8月18日、19日 弘沢の滝ふるさと夏まつり開催
 10月1日 子ども医療費助成制度が開始

二〇〇八（平成二十）
 2月15日 デマンドバスやまびこ実証運行が神戸地区・藤倉地区で開始
 2月19日 重要文化財小林家住宅購入
 3月 地域公共交通総合連携計画を策定
 3月 健康ひのほら21を策定
 4月 定住を促進するため貸出・売買可能な空き家の登録と改修費の一部助成制度開始
 4月 若年世帯が定住するための住宅建設補助制度開始
 4月1日 教育の森が開園
 6月1日 公共下水道が供用開始（神戸・宮ヶ谷戸・夏地の各一部）
 8月 元郷住宅供用開始
 8月1日 公共下水道が供用開始（笹野・柏木野の各一部）
 23日、24日 弘沢の滝「水と光の響き」弘沢の滝ふるさと夏まつり開催
 11月 住宅用火災警報器設置100％達成

二〇〇九（平成二十一）
 3月 高齢者保健福祉計画介護保険計画（第4期）を策定
 3月 障害福祉計画（第2期）を策定
 4月 榎原村商品券発行

3月28日 真鶴町との災害時相互応援協定を締結
 4月 神戸地区 神戸大橋 供用開始
 4月 西秋川衛生組合新炉完成に伴うごみ分別方法変更
 6月1日 公共下水道が供用開始（和田・事貴・上平の各一部）
 7月 榎原村地域振興券発行
 8月23日、24日 弘沢の滝ふるさと夏まつり開催
 10月5日 第4回東京ヒルクライム＜HINOHARAステーション＞大会
 19日 榎原村政125周年記念 榎原村郷土芸能祭開催
 12月18日 ウッドスタート宣言

二〇一五（平成二十七）
 3月 特定環境保全公共下水道計画変更認可（102ha）
 3月 障害福祉計画（第4期）を策定
 3月 高齢者保険福祉計画介護保険事業計画（第6期）を策定
 3月 榎原村地域福祉計画（第3期）を策定
 4月26日 統一地方選挙（村長、村議会選挙）が執行
 5月31日 重要文化財小林家住宅落成式
 6月1日 公共下水道が供用開始（上平・笛吹の各一部）
 7月1日 振り込め詐欺防止機能付き電話機設置及び補助事業開始
 1日 榎原村住宅用火災警報器設置事業等により設置した住宅用火災警報器の点検及び交換事業開始
 8月1日 職員防災住宅（4世帯）供用開始
 22日、23日 弘沢の滝ふるさと夏まつり開催
 9月1日 地域おこし協力隊発足
 10月1日 日本郵便株式会社と協定を締結 高齢者みまもり事業開始
 4日 第5回東京ヒルクライム＜HINOHARAステーション＞大会

二〇一六（平成二十八）
 3月 榎原村人口ビジョン・総合戦略を策定
 4月1日 榎原村役場西庁舎が開庁
 5日 株式会社めるか榎原（第三セクター）設立
 6月1日 公共下水道の供用開始（下川乗・上川乗・上平・笛吹・小岩地区の一部）
 7月13日 ショッピングストア「かあべえ屋」オープン
 8月20日、21日

4月1日 環境保全条例制定
 1日 企（起）業誘致促進条例制定
 6月 笹平地区 向橋 供用開始
 6月1日 公共下水道が供用開始（笹野・出畑・小岩の各一部）
 8月22日、23日 弘沢の滝「水と光の響き」弘沢の滝ふるさと夏まつり開催
 9月 元郷住宅（10戸）供用開始
 10月4日 榎原村制施行120周年記念 榎原村郷土芸能祭開催
 4日 榎原村表彰式が行われる
 12月 下水道マスタープラン策定

二〇一〇（平成二十二）
 2月 多摩地区で初の電気自動車導入
 2月 バイオマスタウン構想策定
 3月 榎原村地域福祉計画（第2期）を策定
 3月 榎原村次世代育成支援後期行動計画を策定
 6月 特定環境保全公共下水道計画変更認可（95ha）
 6月1日 公共下水道が供用開始（下元郷・上元郷の各一部）
 7月20日 デマンドバスやまびこ実証運行が笛吹・上平で開始
 8月1日 公共下水道が供用開始（出畑の各一部）
 21日、22日 弘沢の滝「水と光の響き」弘沢の滝ふるさと夏まつり開催
 9月1日 通学専用急行バスの実証運行開始
 10月 榎原小学校体育館冷暖房設備整備
 12月 元郷住宅（7戸）供用開始

二〇一一（平成二十三）
 2月1日 公共下水道が供用開始（出畑・下川乗の各一部）
 3月 辺地に係る総合整備計画を策定
 4月 デマンドバスやまびこ神戸線・藤倉線が本格運行
 4月 企（起）業誘致第1号企業操業開始
 4月 高齢者医療費助成制度開始
 4月 榎原学園として小・中学校一貫教育開始
 4月 全国瞬時警報システム運用開始
 4月 港区と二酸化炭素固定化の協定
 4月 榎原村森林整備計画（変更）策定
 4月24日 統一地方選挙（村長、村議会選挙）執行
 5月6日 秋川農協榎原支店役場庁舎内に移転しオープン
 14日 榎原学園開園式挙行政

9月 弘沢の滝ふるさと夏まつり開催
 9月 榎原村の鮎が「全国清流めぐり利き鮎会 準グランプリ」受賞
 10月2日 第6回東京ヒルクライム＜HINOHARAステーション＞大会
 11月15日 公共下水道の供用開始（笹野地区の一部）

二〇一七（平成二十九）
 3月 榎原村空家等対策計画を策定
 3月30日 「ひのじゃがくんポスト」受渡式が行われる
 4月 高齢者先進安全自動車購入費補助金制度開始
 6月1日 公共下水道の供用開始（数馬地区の一部）
 7月、12月 プレミアム付き商品券事業実施
 8月1日 企業誘致第2号「FUNFAM」操業開始
 19日、20日 弘沢の滝ふるさと夏まつり開催
 9月 郷土芸能映像記録完了（平成28、29年度の2カ年事業）
 10月1日 返済不要の榎原村育英資金貸付制度開始
 1日 第7回東京ヒルクライム＜HINOHARAステーション＞大会
 5日 榎原村表彰式が行われる
 19日 利島村と友好村盟約を締結
 11月 消防ポンプ自動車更新（ポンプ自動車更新完了）
 12月14日 デマンドバスやまびこ実証運行（泉沢・日向地区）開始

二〇一八（平成三十）
 3月 榎原村一般廃棄物処理基本計画を策定
 3月 第5期榎原村障害福祉計画・第1期榎原村障害児福祉計画を策定
 3月 第7期榎原村高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画を策定
 3月 がんばんべえ健康ひのほら21（第3次）を策定
 4月 榎原村エコソリューションズ推進全体構想が国・環境省・国土交通省・文部科学省・農林水産省 の認定を受ける
 4月 やすらぎの里（福祉複合施設）にチップボイラーを導入
 6月1日 公共下水道の供用開始（数馬地区の一部）
 18日、27日 地域住民懇談会を8会場で実施

6月1日 公共下水道が供用開始（千足・白倉の各一部）
 7月21日、8月10日 住民懇談会を村内8会場で開催
 8月1日 公共下水道が供用開始（上川乗の一部）
 20日、21日 弘沢の滝ふるさと夏まつり開催
 10月1日 西多摩郡4町村電算システム共同化事業運用開始
 2日 第1回東京ヒルクライム＜HINOHARAステーション＞大会
 12月 重要文化財小林家住宅保存修理事業開始

二〇二二（平成三十四）
 3月 榎原村森林整備計画（変更）策定
 3月 障害福祉計画（第3期）を策定
 3月 瀬戸沢林道が浅間林道と接続する
 3月 高齢者保険福祉計画介護保険事業計画（第5期）を策定
 3月14日 ふるさとの森FSC認証（森林認証）取得
 4月1日 上川乗住宅（1棟4戸）供用開始
 8月18日、19日 弘沢の滝ふるさと夏まつり開催
 6月1日 公共下水道が供用開始（上川乗の一部）
 9月9日 第2回東京ヒルクライム＜HINOHARAステーション＞大会（国体自転車競技リハーサル大会）

二〇二三（平成二十五）
 4月1日 ひのほら緑（力）創造事業開始
 1日 本宿第2住宅（4戸）供用開始
 6月1日 公共下水道が供用開始（和田・千足の各一部）
 2日 第3回東京ヒルクライム＜HINOHARAステーション＞大会（国体自転車競技デモンストラーション大会）
 7月 榎原村地域振興券発行
 8月17日、18日 弘沢の滝ふるさと夏まつり開催
 9月29日 第68回国民体育大会自転車競技（ロードレース）の開催
 10月25日 榎原村表彰式が行われる

二〇二四（平成二十六）
 2月14日 大雪災害役場付近で積雪80cm、村内各地孤立発生
 28日 防災行政無線デジタル化工事完了
 3月 第5次総合計画を策定
 3月 榎原村森林整備計画（変更）策定

7月18日 ひのじゃがくん×にしゅん西東京コラボバスが運行開始
 8月18日、19日 弘沢の滝ふるさと夏まつり開催（第30回記念開催）
 10月7日 第8回東京ヒルクライム＜HINOHARAステーション＞大会
 28日 榎原村郷土芸能映像の完成を記念した「榎原村郷土芸能祭」を実施

二〇一九（平成三十一・令和元）
 3月 第5次榎原村総合計画 後期基本計画を策定
 3月 下元郷公衆トイレが完成（建替）
 3月1日 企業誘致第4号「ウッドボックス」操業開始
 22日 中央大学商学部と「交流・連携に関する協定」を締結
 4月1日 定住促進住宅（小岩地区・2棟）供用開始
 21日 統一地方選挙（村長、村議会選挙）執行
 5月27日、29日 南郷地区において山林火災が発生（74、900㎡延焼）
 6月16日 東京都・榎原村合同水害対策訓練が行われる
 28日 土砂災害特別警戒区域指定
 8月17日、18日 弘沢の滝ふるさと夏まつり開催
 9月 榎原村の鮎が「全国清流めぐり利き鮎会 準グランプリ」受賞（2回目）
 9月30日 国家戦略特別区域法に基づき「じゃがいも焼酎特区」の認定を受ける
 10月 おもちゃ等工房竣工。11月より運用開始
 10月、翌年2月 プレミアム付き商品券事業実施
 10月6日 第9回東京ヒルクライム＜HINOHARAステーション＞大会
 12日 台風19号により総雨量646mmを超え本宿地内の都道崩落により南側集落が一時孤立。家屋13棟及び村道・林道・河川にも被害が及ぶ
 12月16日 榎原村のラジオ体操動画が「東京都みんなでラジオ体操プロジェクト動画コンクール」で入賞
 19日 企業誘致第3号「フロンティアジャパン」操業開始

●小岩 相澤美沙子さん
国立公園内の檜原村の自然 × 東京都檜原村の魅力=村で出来るビジネスの創出

●中里 市川萌恵さん
村民や観光客が遊べるショッピングモール等を建てて、多くの人を笑顔にできる村にする。

●人里 井上佳洋さん
温暖化で暑い都会からの移住者が増加。彼らを快く受け入れ、心豊かに生活する村人たち。

●数馬 岡部重久さん
エコツーリズムや空家の活用で、自然に癒される移住者・観光客が増え、活気あふれる村。

●本宿 川端恵美さん
緑あふれる自然豊かなままで。山も川も星空もずっとずっと美しいままであってほしい。

●下川乗 菊池幸子さん
イタリアの小さな村のように、皆で助け合って生きる「心優しい美しい村」であってほしい。

●下元郷 清田直博さん
物流ドローンが飛び、水素タクシーが走る。子供たちの賑やかな声、世界につながっている村。

●藤倉 小泉民行さん
檜原は自然の宝庫。滝も探せばもっとあるはず。今以上に自然を楽しめる村になってほしい。

●白倉 小林篤さん
人と、人の笑顔がもっと増える村にしたい。

●中里 小林涼香さん
森のアスレチックなど自然を活かしたレジャー施設を作って、人の笑顔があふれる村に！

●出畑 坂本実優さん
木や森を活かしたアスレチックパークができれば、友達と行って遊んでみたい。

●上川乗 佐藤可南子さん
歴史ある家並と新しい住宅が景色になじむ村。遊び場は手入れの行き届いた森。

●昭島市 鈴木彩瑛さん（檜原村観光協会勤務）
時代が進んでも、自然と伝統を大切に心がずっと受け継がれていると思います。

●本宿 高取将斗さん
より多くの観光名所が作られ、人々に癒やしと笑顔をくれる村。

●笛吹 高橋春香さん
村の伝統や行事が、若者の手でずっと受け継がれている村。

●笹野 田中千代子さん
自然に寄り添う暮らしと都市部からの適度な刺激。両方を味わえる最高の村。未来もずっと。

●小岩 土屋貞美さん
古代より人が住み歴史を刻む、山間の山吹匂う檜原の郷。この魅力を未来へ伝えたい。

●小岩 鳴島浩二さん
豊かな自然の中で、豊かな心を育み、自然・人・動物が豊かに共生する村。

●柏木野 幡野昭和さん
活気のある村に！ 一人でも多くの人に、檜原村へ遊びに来てもらえるようにしたい。

●下川乗 松岡賢二さん
三頭山が「都民の森」なら、檜原村は「都民の村」に。東京のふるさととして、未来に繋ぐ。

ひの はら

2020 My Hinohara

HinoharaLife
彩りと豊かな村 檜原村
東京都 檜原村 村勢要覧

檜原村章
檜原の「ひ」の字の図案化したものです。
丸の部分は一体化を表し、上部の三角部分は鳥の羽根を図案化し、過疎化が進む中でも村民が沈むことなく一体となって飛躍することを望む図案となっています。



村の木 「ひのき」 村の花 「やまぶき」 村の鳥 「うぐいす」

村ならではの！
取材を通して出会った檜原村在住・在勤の皆様、
この村ならではの良さ・好きなどをあげてもらいました。